

令和 4 年度
自転車イベント開催における共通感染症対策業務及び調査研究事業
調査報告書

調査研究について

●目的

令和4年度に自転車月間推進協議会〈事務局：(一財)日本自転車普及協会〉が主催する自転車イベントを開催するにあたり、昨年度に引き続き猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行い、「新様式」での自転車イベント、自転車競技大会の運営スタイルを構築・運営・検証する。

また本業務で実施した対策・検証結果について、業務完了後に調査研究報告書としてとりまとめ、そのノウハウを他の自転車関連イベント、競技大会主催者等に、昨年度に続き、今年度ブラッシュアップした情報提供として活用する。

●対象事業

本研究は、下記3事業への取り組みについて考察・検証することにより実施する。

- ・サイクルドリームフェスタ2022
【2022年5月5日（木・祝）】
- ・Tour of Japan2022（信州飯田ステージ、富士山ステージ、相模原ステージ、東京ステージ）
【2022年5月19日（木）～5月22日（日）】
- ・2023ハンドメイドバイシクル展（科学技術館：千代田区北の丸公園）
【2023年1月21日（土）、1月22日（日）】

目次

はじめに	2
------	---

【総括】

■ 総括・考察まとめ	5
1. 感染対策チームの設置	5
2. 行動履歴と健康観察	5
3. 検査体制	5
4. 検温所の設置	6
5. 参加者（選手）の感染対策	6
6. 会場内・スタッフの感染対策	7
7. イベント関係者の事後の感染状況の把握	7

【サイクルドリームフェスタ】

■ 実施概要	9
■ サイクルドリームフェスタにおける感染症対策	14
感染対策実施の概要	15
感染対策チーム組織体制図	16
感染対策マニュアル作成	17
行動履歴、健康観察報告フォームの提出	18
抗原検査の実施、結果の申告	18
感染疑似症者発生時の対応	19
感染対策員の配置	19
再入場の識別	19
■ 行動履歴、健康観察報告の提出	20
■ 会場における検温所体制	24
■ 結果報告	27
■ 考察まとめ	29
■ 手配物、会場の様子	32
手配備品一覧	33
手配納品物	35
会場の様子	36

目次

【Tour of Japan】

■実施概要	38
■Tour of Japanにおける感染症対策	40
用語の定義	41
TOJ全体の対策事項	43
バブル方式によるコロナ対策	44
ガイドラインの作成	53
健康観察報告の提出	55
■感染対策チームの設置	58
感染対策チーム内の配置実績	60
■感染対策マニュアル作成	64
■会場における検温所体制	66
■結果報告	73
事前PCR検査、抗原検査体制と結果	74
健康観察アプリの結果	75
各会場における検温所 集計結果	76
大会中の個別対応	78
考察まとめ	79
■手配物、会場の様子	83

【ハンドメイドバイシクル展】

■実施概要	94
■ハンドメイドバイシクル展における感染症対策	97
感染対策実施の概要	98
感染対策の具体的実施事項	99
感染対策チーム組織体制図	100
感染対策マニュアル作成	101
健康観察、行動履歴報告の記録用紙の提出	102
抗原検査の実施・結果の申告	102
感染疑似症者発生時の対応	103
感染対策員の配置	103
混雑状況表示モニターの設置	103
■行動履歴、健康観察報告	104
■会場における検温所体制	107
■結果報告	110
■考察まとめ	112
■手配物、会場の様子	114
参考・出典文献	119
他のスポーツ団体等への情報提供実績	120
調査実施団体	121

1. 感染対策チームの設置

イベントにおける感染対策チームの設置は、新型コロナウイルス感染症流行下でのイベント開催を安全かつ確実に実施する上で有効であったと考える。

特に下記の点について、感染対策に専従するスタッフの配置は必要なものであった。

- * 水際対策の緩和により入国者・感染者が増加し、より感染力の強い変異株が流入する状況下で、常に新しい情報を専門家の知見から対策に落とし込むことが必要であった。
- * 関係者・スタッフへの事前検査や健康観察を必要とする場合、検査の手配・状況把握、健康観察アプリの管理といった事務作業に特化し、イベント当日感染対策を行うオペレーションスタッフの存在が不可欠である。
- * 感染症対策の緩和に伴い、世相を反映した適切な感染対策を検討することが求められた。過度な対策を講じることにより不快にならず、対策不足によりイベントの安全性を損なわないという双方のバランスを保つためには、前述と同様に常に新しい情報を専門家の知見から対策に落とし込むことが必要であった。

2. 行動履歴と健康観察

- ・ 行動履歴および健康観察の記録は、対象者に多くの負担が掛かり、回答漏れが生じる。また回答漏れが多いほど、管理者側の負担も増えることとなる。そのため、フォーマットの簡素化や健康観察アプリ導入により負担を軽減し、回答漏れを低減させる工夫が必要となる。
- ・ 観察記録アプリの導入においては、アプリの居住地により使用できないものがあるため注意が必要である。また、アプリ選定の際に海外対応しているかを確認することが重要である。
- ・ 対象者のうち一定数はPC・スマートフォンでの回答ができない人がいるため、紙による回答を受け付ける必要がある。また、ネット環境のトラブルが発生した場合にもリカバリーできるため、記入用紙は事前に作成することが望ましい。

3. 検査体制

- ・ イベント等への参加要件として、抗原検査にて陰性確認を行うことは、無症状陽性者や発症前の陽性者を除外するために有効な手段である。
- ・ 抗原検査は、感染の可能性を確認する上では有効であるが、厚生労働省が薬事承認しているキットを使用すべきである。
- ・ 適切な時期・回数のワクチン接種が有効であり、ワクチン未接種の場合PCR検査での陰性確認を行う必要がある。

4. 検温所の設置

- ・ イベント会場やイベント参加者の当日の検温は、発熱者の除外の意味で水際対策として有効である。
- ・ 検温に係る時間短縮のため、検温速度の速い機器を導入することと併せて、自立式の検温スタンドを使用したことで、検温器オペレーター1人の人手を入場者整理やマスク交換の対応に回すことができ、来場者のスムーズな入場に寄与した。
- ・ 検温所では、検温のみでの判断が難しい場合がある（体温は軽微にしか上がっていないが、その他の風邪症状や新型コロナ関連症状がある、など）。また、サーモグラフィ型の検温機は、実測の体温計に比べ精度が劣ることが多い。それらのことから、看護師等の医療従事者が検温、問診などを行える2次検温所を設けることが望ましい。
- ・ 検温済みのパスやリストバンドを配布する場合には、入場者の動線を確認した上で配布場所を設置することが望ましい。特に、観客等を車両移送する場合、バス乗車口などの検温所通過前に配布してしまうことで現場の混乱を招くこととなる。
- ・ 検温機器は雨、風、気温などの外的要因に影響されるため、特に屋外での使用については対策を講じる必要があり、検温所の設置計画段階から考慮して進めることが重要である。
(対策の例)
 - * 雨や風が除けられるようテントの設置場所を考慮する、テント横幕で囲う。
 - * 直射日光により体表面温度が上がると測定の精度が落ちるため、直射日光が当たらない場所への検温所設置はもとより、検温直前に、被検温者が陽に当たらないような動線づくりとする。
 - * 真夏、真冬の使用の場合には、一層温度管理に留意し、空調管理を行う。

5. 参加者（選手）の感染対策

- ・ マスクの着用規則を明確にし周知することが重要である。
- ・ バブル方式をとる場合、徹底したゾーニングが求められる。また、レースバブル外のスタッフやメディア等がバブル内に入る場合の条件などを明確化しそれを遵守させることが重要である。
- ・ イベントが複数日程に及ぶ場合、競技中よりもむしろ宿泊場所や移動中、および食事会場などでの感染リスクが高いため、生活面での感染対策を徹底すべきである。競技中以外の新型コロナ感染症を疑う発熱や上気道症状などを呈する選手やスタッフが発生した場合に、参加者のクラスター発生を防ぐために、医師を中心とした感染対策医療チームを帯同させ、速やかに感染者対応することが望まれる。また、医師の帯同の代替策として、看護師や救急救命士を帯同させ、医師のオンライン指示・助言体制をとることも有効である。
- ・ ケガ等での医療機関の受診についてもバブルから外れることになるため、可能な限りバブル内での救護体制を充実させておく。

6. 会場内・スタッフの感染対策

- ・マスクの着用規則を明確にし周知することが重要である。マスクはサージカルマスクの着用の徹底が効果的である。
- ・アルコール消毒ポンプは会場動線を考慮し、必ず通過する入場口とアンケートコーナー等の人が集まる場所に配置することが効果的であり、触れたものについては頻回の消毒作業を行うことで感染対策により一層の効果を得ることができる。
- ・会場内の密を避ける対策（看板設置、巡回スタッフによる呼びかけ、待機列等の足場を示すシールの設置、会場内の混雑状況の掲示など）を講じることは、安全なイベント運営において大変重要である。
- ・イベントの実施場所が、屋内であるか、屋外であるかによって、感染リスクは大きく異なる。
屋内イベントにおいては、適度な換気を行いリスクを低減させるほか、屋外イベントに比べ一段階強化した対策を講じる必要がある（マスク着用、密を避ける対策、座席間の距離をあける、など）。
また、屋外イベントであっても、テント横幕などで覆われたテント内などで換気がされていない場合は、屋内と同様の対策が必要になる。
屋内およびテント内などでは、換気を行うことで感染リスクを大幅に低減できるため、十分な換気は非常に重要である。
- ・イベント中にスタッフや来場者に新型コロナ関連症状が発生した時に備え、救護所を設置し、医療資格者による適切な初期対応が可能な体制を継続することが望ましい。

7. イベント関係者の事後の感染状況の把握

- ・イベントに関わった人の中で、事後数日以内に新型コロナ陽性が判明した場合に、ただちに情報が主催者にて集約できる体制をとる必要がある。
- ・事後に陽性者が発生した場合の参加者、関係者への周知方法について、事前に協議しておく必要がある。
- ・事後にも感染対策において医療的な相談体制をとっておくことが望ましい。

サイクル ドリームフェスタ 2022

2022年5月5日（木・祝）

実施概要

サイクルドリームフェスタ2022 実施概要

名称：サイクルドリームフェスタ2022

日時：令和4年 5月 5日（木・祝） 10時～16時 荒天中止

会場：明治神宮外苑 聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町) 及び周辺道路

入場料：コロナ感染症感染防止対策費：100円（現金のみ、3才以上対象）

主催：自転車月間推進協議会

事務局：（一財）日本自転車普及協会

後援：自転車活用推進議員連盟/自転車活用推進本部/内閣府/警察庁/消費者庁/総務省/文部科学省/経済産業省/国土交通省/
環境省/東京都/新宿区/（公財）JKA/健康日本21推進全国連絡協議会

協賛：日本バンダーネット（株）

協力：平和技術研究所/SPECIALIZED/5LINKS/プロショップ・タカムラ製作所/（株）近藤機械製作所/（株）WBS/ヨネックス（株）/
（株）東商会/メリダジャパン（株）/ミズタニ自転車（株）/（株）サイクルスポット/マヴィックジャパン（株）/
警視庁交通総務課/警視庁四谷警察署/テクプラパーク powered by BBmedia/ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム/
バイシクルタウン青山/（株）インターマックス/（一社）グッド・チャリズム宣言プロジェクト/（株）和光ケミカル/
ジャパンカップサイクルロードレース/（株）トキノカンパニー/ヨツバサイクル/
（一財）日本サイクルスポーツセンター/アズマ産業（株）/なるしまフレンド/（一社）全日本フリースタイルBMX 連盟/
ダイドードリンコ（株）/（N）自転車活用推進研究会/東京サイクリング協会/（公財）日本サイクリング協会/(順不同)

ステージイベント概要

タイム
スケジュール

ステージイベント（予定）

※ステージイベントにつきましては、時間等変更になる場合がございます。

🕒 11:00 ~	BMXパフォーマンスショー（第1回目） （協力：（一社）全日本フリースタイルBMX連盟）
🕒 11:30 ~	自転車メンテナンス講座 （協力：なるしまフレンド）
🕒 12:00 ~	ピーポ君の自転車交通安全教室 （協力：警視庁四谷警察署）
🕒 12:30 ~	我らワールドトークショー （サッシャ氏・栗村修ツアー・オブ・ジャパン大会ディレクター）
🕒 13:00 ~	輪行実演ステージ （協力：アズマ産業（株））
🕒 13:30 ~	BMXパフォーマンスショー（第2回目） （協力：（一社）全日本フリースタイルBMX連盟）

■参加ライダー



出展社情報 (試乗会)

試乗会

自転車体験試乗会

試乗コースは神宮外苑サイクリングロード。
(1周約1.2km)

高級スポーツバイクや電動アシスト自転車に
実際に乗って、体験してみてください。
タンデム(二人乗り)自転車の試乗も出来ます。

受付開始時間：09:45 試乗開始時間：10:00
受付終了時間：15:40 試乗終了時間：16:00

※試乗には身分証明書のご提示が必要です。
必ずお持ちください。

事前申し込みはこちらより

【サイクルドリームフェスタ2022】入場受付のみ

【サイクルドリームフェスタ2022】外周用試乗申込書・書・誓約書(※入場受付込み)



出展ブランド (予定)

 <p>Global standards of Folding bike by Peace And Technology since 2011</p>			
<p>平和技術研究所</p>	<p>SPECIALIZED</p>	<p>5LINKS</p>	<p>プロショップ・タカムラ製作所</p>
 <p>made by Kondo Machine Corporation</p>			
<p>株式会社近藤機械製作所</p>	<p>(株) WBS</p>	<p>ヨネックス株式会社</p>	<p>株式会社東商会</p>
			
<p>メリダジャパン株式会社</p>	<p>ミスタニ自転車株式会社</p>	<p>株式会社サイクルスポット</p>	<p>マヴィックジャパン株式会社</p>

出展社情報（出展、展示）

警視庁四谷警察署
警視庁交通総務課



国土交通省(自転車活用推進本部)



自転車活用推進本部

公益財団法人 J K A

MoreCADENCE
morecadence.jp

株式会社和光ケミカル

A
Aggressive
Design

インターマックス

INTERMAX

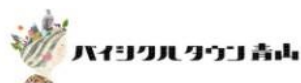
テクプラパーク power by BBmedia



トキノカンパニー

TOKINO

バイシクルタウン青山



一般社団法人グッド・チャリズム宣言
プロジェクト

good-charism
グッド・チャリズム宣言プロジェクト

JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE

JAPAN CUP
CYCLE ROAD RACE
in UTSUNOMIYA

ツール・ド・フランス
さいたまクリテリウム

**Tour
france**
SAITAMA
CRITERIUM

Tour of Japanブース

三菱地所 presents
Tour of Japan
2022

ヨツバサイクル

ヨツバサイクル

自転車文化センター

B C C
自転車文化センター
BICYCLE CULTURE CENTER

自転車月間・バイコロジー



**サイクルドリームフェスタ2022における
感染症対策**

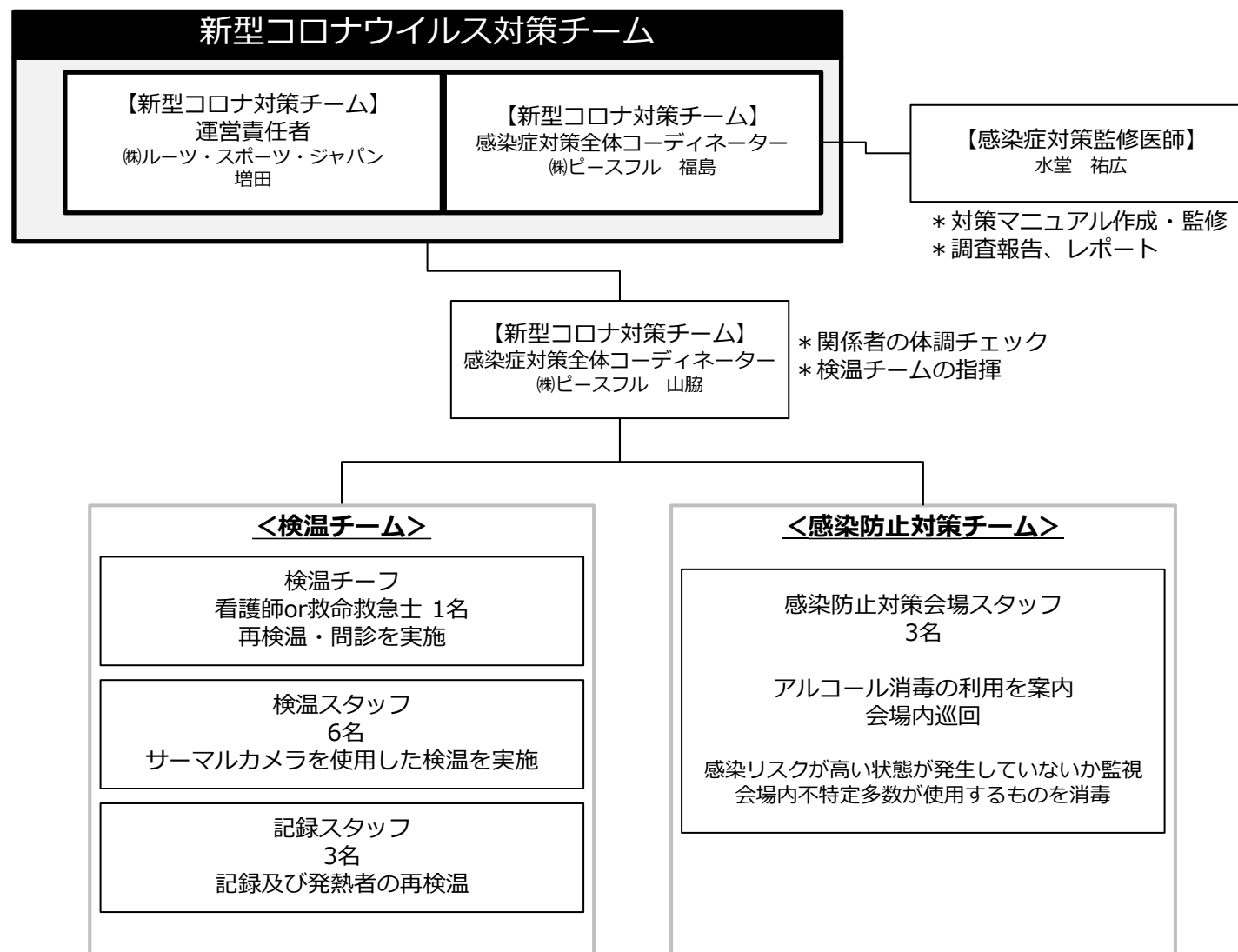
サイクルドリームフェスタ2022における感染症対策

感染対策実施の概要（感染対策マニュアル抜粋）

- (1) 感染症対策チームの設置、帯同
- (2) CDFホームページにおいて関係者・来場者に向けた本ガイドラインの掲載及び周知
- (3) 関係者は、イベント開催10日前から体調チェックを行い、会場入りをする前日までの体調を所定のフォームにて提出徹底
- (4) 関係者は、イベント終了後1週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告し、濃厚接触者等の確認を行う
- (5) イベントで規定された関係者は、会場入り日の24時間以内に抗原検査（定性または定量）を受け、陰性を確認
- (6) 感染者発覚後の隔離（スペース確保を含む）、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化
- (7) 感染症罹患が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る
- (8) 会場における入退場動線作成及びサーマルカメラ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止
- (9) 会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (10) イベント会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底
- (11) フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する
- (12) 各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える。
- (13) 以下に該当する方は、イベントへのいかなる参加（会場への来場含）も不可とする
 - ① 過去10日以内から会場来場当日までに、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ② PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記a～dに該当する方
 - a. 有症状で、発症日から10日未満、かつ症状軽快後72時間以内
 - b. 症状軽快後24時間経過から、24時間以上の間隔をあげ、2回のPCR検査で陰性を確認できていない
 - c. 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満
 - d. 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあげ、2回のPCR検査陰性を確認できていない
 - ③ 濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中
 - ④ 家族に①のa～dいずれかの体調不良者がいる

サイクルドリームフェスタ2022における感染症対策


感染対策チーム組織体制図



サイクルドリームフェスタ2022における感染症対策

感染対策マニュアル作成

主催者、感染対策チーム、その他主要運営スタッフに配布（全18ページ）

 <p>サイクルドリームフェスタ2022 新型コロナウイルス対策マニュアル</p> <p>この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。 https://jka-cycle.jp/</p>	<h3>INDEX</h3> <table><tr><td>■はじめに</td><td></td></tr><tr><td>本マニュアルの目的</td><td>3</td></tr><tr><td>用語の定義</td><td>3</td></tr><tr><td>■CDF開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン</td><td></td></tr><tr><td>CDF開催における対策事項</td><td>5</td></tr><tr><td>開催期間中の注意点まとめ</td><td>8</td></tr><tr><td>■CDF開催中止の判断基準</td><td></td></tr><tr><td>開催中止の判断基準</td><td>9</td></tr><tr><td>■健康観察報告</td><td></td></tr><tr><td>健康観察報告フォームの提出</td><td>10</td></tr><tr><td>■コロナ対策チーム</td><td></td></tr><tr><td>組織体制図</td><td>11</td></tr><tr><td>■コロナ対策連絡先一覧</td><td></td></tr><tr><td>コロナ対策担当者/保健所</td><td>12</td></tr><tr><td>■会場における検温所体制</td><td></td></tr><tr><td>検温所の概要</td><td>13</td></tr><tr><td>ブース配置図</td><td>15</td></tr><tr><td>■会場設置注意喚起看板</td><td></td></tr><tr><td>注意喚起看板</td><td>16</td></tr><tr><td>■感染疑い発生時の対応フロー</td><td></td></tr><tr><td>感染疑い発生時の対応フロー</td><td>17</td></tr><tr><td>感染疑い発生時の対応フロー（陽性確定時）</td><td>18</td></tr><tr><td>■コロナ対策備品リスト</td><td></td></tr><tr><td>コロナ対策備品リスト</td><td>19</td></tr></table>	■はじめに		本マニュアルの目的	3	用語の定義	3	■CDF開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン		CDF開催における対策事項	5	開催期間中の注意点まとめ	8	■CDF開催中止の判断基準		開催中止の判断基準	9	■健康観察報告		健康観察報告フォームの提出	10	■コロナ対策チーム		組織体制図	11	■コロナ対策連絡先一覧		コロナ対策担当者/保健所	12	■会場における検温所体制		検温所の概要	13	ブース配置図	15	■会場設置注意喚起看板		注意喚起看板	16	■感染疑い発生時の対応フロー		感染疑い発生時の対応フロー	17	感染疑い発生時の対応フロー（陽性確定時）	18	■コロナ対策備品リスト		コロナ対策備品リスト	19
■はじめに																																																	
本マニュアルの目的	3																																																
用語の定義	3																																																
■CDF開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン																																																	
CDF開催における対策事項	5																																																
開催期間中の注意点まとめ	8																																																
■CDF開催中止の判断基準																																																	
開催中止の判断基準	9																																																
■健康観察報告																																																	
健康観察報告フォームの提出	10																																																
■コロナ対策チーム																																																	
組織体制図	11																																																
■コロナ対策連絡先一覧																																																	
コロナ対策担当者/保健所	12																																																
■会場における検温所体制																																																	
検温所の概要	13																																																
ブース配置図	15																																																
■会場設置注意喚起看板																																																	
注意喚起看板	16																																																
■感染疑い発生時の対応フロー																																																	
感染疑い発生時の対応フロー	17																																																
感染疑い発生時の対応フロー（陽性確定時）	18																																																
■コロナ対策備品リスト																																																	
コロナ対策備品リスト	19																																																

サイクルドリームフェスタ2022における感染症対策

行動履歴、健康観察報告の申請フォームの提出

サイクルドリームフェスタ2022では、出展者及び関係者にイベント当日から遡った10日間にわたり、体調不良や発熱等の症状がない旨を確認する行動履歴・健康観察報告の申請フォームの提出を義務とした。

●方法

事前案内に記載したQRコードからアクセス可能な「サイクルドリームフェスタ 2022 関係者健康観察・行動履歴報告の申請フォーム」を公開、必要事項を入力し送信する。

フォームにはGoogleフォームを使用した。

抗原検査の実施、結果の申告

事前に出展関係者数を集計し各団体代表者あてに抗原検査キットを送付、会場へ入る24時間以内に検査を行うことを義務とした。

●方法

出展者に抗原検査キット必要数を確認し送付。

検査実施のタイミング（会場に入る24時間以内）をキットに同封した案内状に記載。

検査の結果は、健康観察・行動履歴報告の申請フォームに抗原検査結果の入力欄を設け、陰性／陽性のいずれかを回答必須項目として設定し、回答率が100%となるようにした。

サイクルドリームフェスタ2022における感染症対策

感染疑似症者発生時の対応

<対応手順>

1. 検温にて37.5度以上を検知
2. 救護所兼再検温所へ移動
3. 問診及び再検温
4. 発熱または問診の結果、感染が疑われる場合は入場不可の判断
5. 緊急性がある場合は救急搬送、緊急性がない場合は帰宅

感染対策員の配置

会場内の感染対策として感染対策員による清掃を実施、不織布マスクを着用していない方や密になっているブース等がある場合には、声掛けを行う。

●方法

清掃員にはグローブ、消毒スプレー、除菌ウエットシートを携行させて会場内を巡回及び定点監視を行う。
記入が終わった受付用紙記入テーブルおよび筆記具は、アルコールスプレーを使用し速やかに消毒を実施する。
不織布マスクを着用していない参観者に、マスク付け替えの声掛けと交換用マスクをお渡しする。
監視中に密となっている方を発見した際には、密にならないよう声掛けを行う。

再入場の識別

本イベントの受付を済ませた来場者は手首にリストバンドを着用するため、再入場者には検温を実施せず、手指のアルコール消毒のみ実施するよう声掛けを実施した。

●方法

再入場者は手首のリストバンドを検温スタッフに掲示するよう声掛けをする。
リストバンド着用を確認したら、検温所を通過した先に配置したアルコールスプレーで手指消毒をするように案内する。

行動履歴、健康観察報告の提出

行動履歴、健康観察報告の提出

●概要

イベント10日前より所定の体調管理項目に当てはまる症状及び行動調査項目がないかチェックを行い、抗原検査の結果と共に提出

●イベント開催日

2022年5月5日

●記録・提出方法

Googleフォームによる提出 ※Google フォームの内容は次ページに掲載

●対象者

サイクルドリームフェスタ2022出展者及び関係者

行動履歴、健康観察報告の提出

サイクルドリームフェスタ 2022 関係者 健康観察・行動履歴報告の申請フォーム

こちらは【サイクルドリームフェスタ 2022】健康観察・行動履歴報告の申請フォームです。

下記の期間についてご自身の体調について、適切なよう入力をお願いします。

<健康観察・行動履歴チェック該当期間>
4月25日（月）～ 5月4日（水）の10日間

<入力方法について>
チェック期間の最終日の【5月4日（水）】にご入力ください。
期間内における、複数の項目に当てはまる症状・行動についてご回答ください。
半連日の回答が必須となりますので、入力の漏れ・間違いがないようご確認の上、送信してください。
自動返信でご登録いただいたメールアドレスに申請内容が送られますのでご確認ください。

<抗原検査の結果について>
本フォームの最後に、抗原検査の結果または陽性のチェック項目がございます。
回答必須となりますので、健康観察・行動履歴報告と合わせて入力し、送信してください。

<情報の取り扱いについて>
記載していただいた個人情報、本大会の健康観察管理以外には使用しません。
ご本人の同意がなければ第三者に個人情報を提供することはありません。
放棄した個人情報は管理責任者を含め、紛失や漏洩などが発生しないよう適切な安全管理を実施いたします。

氏名および所属、メールアドレス、ご連絡先電話番号を必ずご入力ください。

tk.yamawaki@gmail.com アカウントを切り替える  下書きを保存しました
*必須

メールアドレス*

tk.yamawaki@gmail.com

氏名*

▲

所属*


▲

ご連絡先電話番号*

▲

次へ  1/3 ページ フォームをクリア

サイクルドリームフェスタ 2022 関係者 健康観察・行動履歴報告の申請フォーム

tk.yamawaki@gmail.com アカウントを切り替える 
*必須

健康観察・行動履歴について

以下、健康観察・行動履歴チェック該当期間【4月25日（月）～5月4日（水）※水】のうち当てはまる項目の有無についてご回答ください。

37.5℃を越える発熱がない*

はい
 いいえ

せき、のどの痛みなどの風邪症状がない*

はい
 いいえ

だるさ（倦怠感）、悪寒（寒さ）（呼吸困難）がない*

はい
 いいえ

嗅覚や味覚の異常がない*

はい
 いいえ

体が重く感じる、だるいなどの症状がない*

はい
 いいえ

新型コロナウイルス感染確認性と診断された人と濃厚接触がない*


はい
 いいえ

同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいない*


はい
 いいえ

過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は該当者との濃厚接触がない*

はい
 いいえ

戻る 次へ  2/3 ページ フォームをクリア

サイクルドリームフェスタ 2022 関係者 健康観察・行動履歴報告の申請フォーム

tk.yamawaki@gmail.com アカウントを切り替える 
*必須

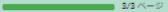
抗原検査の結果報告

会場に出席者として参加する方は（代わりご来場者）、抗原検査を実施し、結果を入力してください。
※必ず、【会場入り日の24時間以内】に抗原検査を実施してください。
結果しない方は、「実施しない」を選択してください。

実施した抗体検査の結果*

陽性
 陽性
 陽性しない

回答のコピーが指定したアドレスにメールで送信されます。

戻る 送信  3/3 ページ フォームをクリア

集計結果

<出展者>

回答者数	65名、520回答（1人/8問）
体調不良なし	518件
体調不良あり	2件
抗体検査回答	陰性65、陽性0

<関係者・スタッフ>

回答数	52名、416回答（1人/8問）
体調不良なし	416件
体調不良あり	0件
抗原検査回答	陰性51、陽性1

※陽性1件は入力ミスと判明

会場における検温所体制

会場における検温所体制

サイクルドリームフェスタ2022では、コロナ対策として会場入り口にて参加者への検温所の運営を行った。
検温所通過後には、記録員が来場者のマスク着用を確認し、無着用または不織布以外のマスクを着用している方へ声掛け、交換用マスクを提供し交換を促した。

●検温フロー

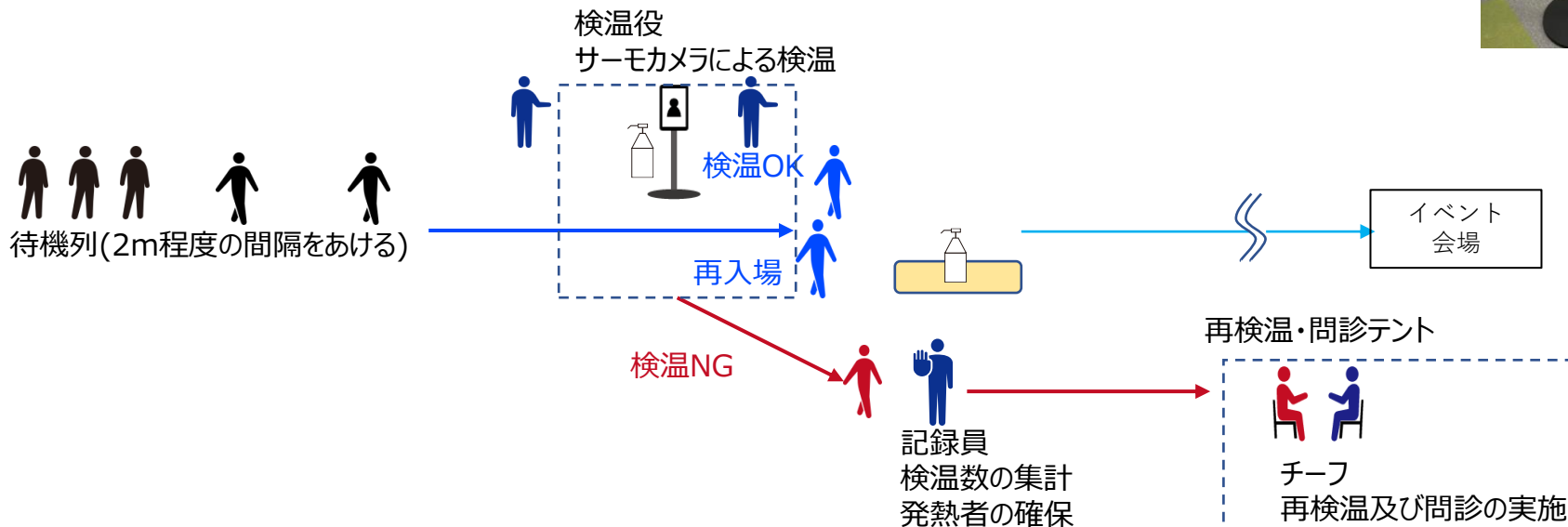
検温所では以下のフローに従って入場の可否を判断する。

<入場可能> 検温所 37.4℃ 以下

<要再検温> 検温所 37.5℃ 以上

<入場不可> 再検温所 37.5℃ 以上 または 問診内容に感染の症候等あり

●検温所レイアウト



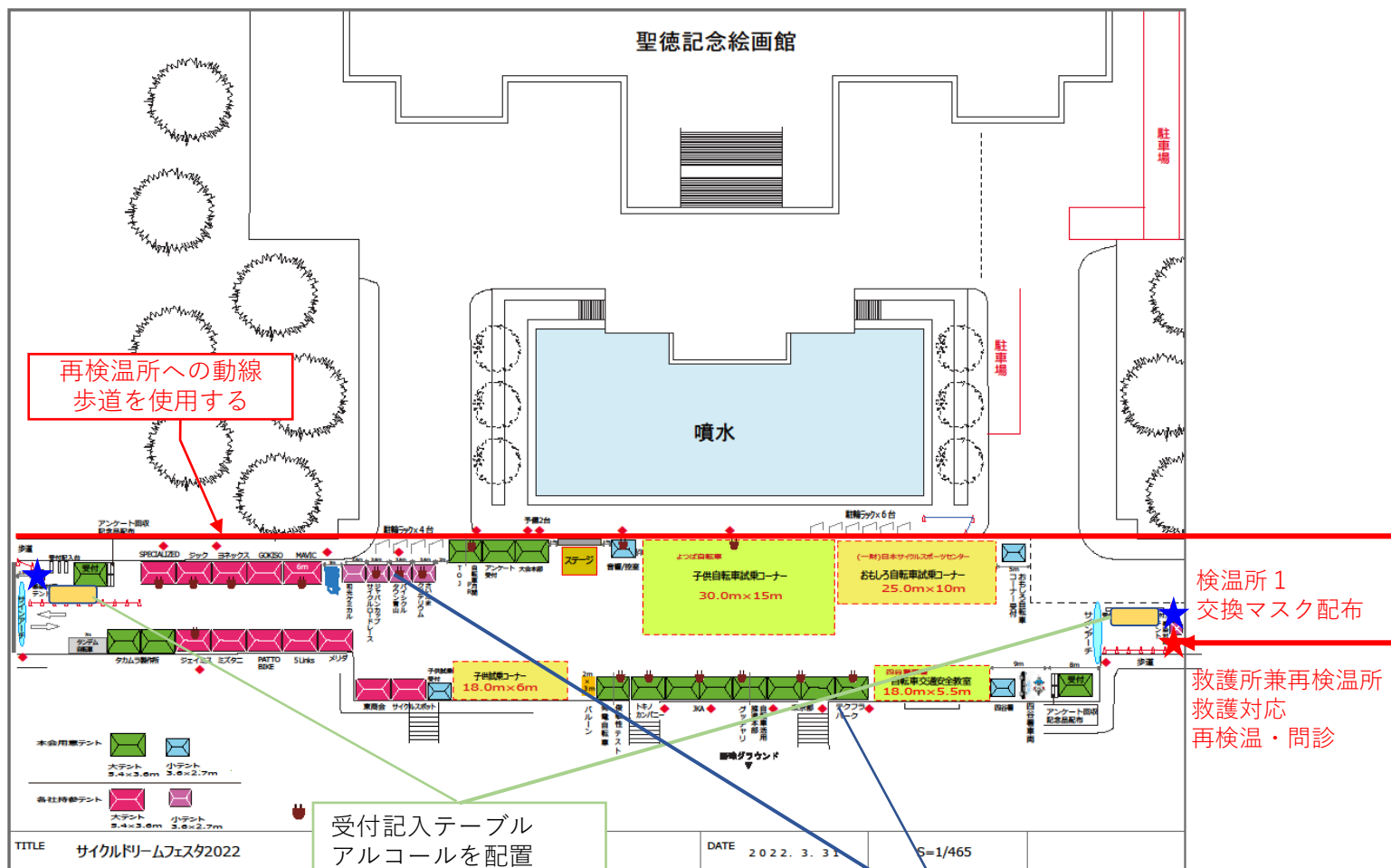
●使用機材

サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T



会場における検温所体制

●メイン会場



- ★ : 検温所 (テント・検温機・発電機)
- ★ : 救護所兼再検温所
- : 消毒液テーブル

各出店ブース
全ブースにアルコールを配置
フェイスシールドを配布

結果報告

各会場における検温所 集計結果

5/5 CDF2022 検温所集計（検温所2ヵ所）

入場者数	1312
マスク未着用者数	9
不織布マスク未着用数	196
マスクお渡し	187
特記事項	マスク未着用および不織布マスク未着用者のうち一部は、マスクを持参していたため、着用を促した

検温所の様子



会場内の様子



考察まとめ (1/3)

1. 関係者の管理に関する事項

- ・ 出展社の個人名の特定ができなかったため、健康チェックを完了していない個人を特定することができなかった。
- ・ 健康チェックの回答内容に問題がある方に対しては、個別確認を実施し対応した。なお、すべて入力ミスによるものと確認済み。
- ・ 一部出展ブースにおいて不織布でないマスクを着用し、来場者と接している場面があったため、会場内を巡回し付け替えを促した。

2. 健康チェック・抗原検査に関する事項

- ・ 健康チェックの件数は117件、問題のある回答や抗原検査が陽性判定者はいなかった。
なお、抗原検査で陽性と回答したものは1名いたものの、本人への聞き取りにより入力ミスであることが確認できた。
- ・ 出展者によっては、抗原検査発送時の申請人数と当日ブースにいる人数が異なり、検温時に事情の聞き取り確認に時間がかかってしまった。
- ・ 出展者によっては、抗原検査の送付数より多い人数が健康チェックに回答し、かつ抗原検査も陰性という回答をしていた。

3. 検温所の体制に関する事項

- ・ 今回導入した機器は反応速度・感度ともに問題なく、一日を通して来場者をほぼ滞留させることがなかった。
AIによる顔の判定を行うため、一部サングラスの着用や帽子やヘルメットを深くかぶっていると反応しないということがあった。
- ・ カメラによる検温のため日光の影響を受けやすく、日差しが強い時間帯は機器の反応が少し鈍くなる場面があったが、機器の向きを調整し以後、問題なく対応した。
- ・ 不織布マスク着用のチェックは、検温スタッフが確認及び交換の声掛けを行い、合計279枚のマスク配布を行った。
- ・ 来場者が多い時間帯は受付の処理が追いつかず、検温所を一時的に封鎖するという場面があった。

4. 会場内の管理に関する事項

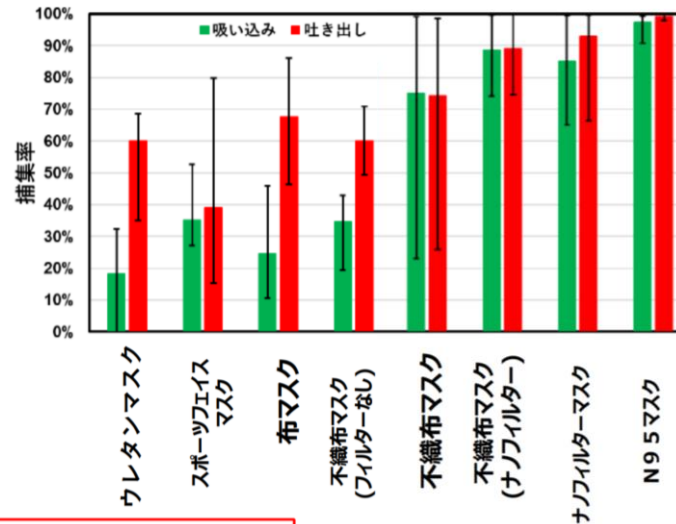
- ・ 会場内の消毒作業については、受付用紙記入テーブルを重点的に実施した。
また、テーブルが非常に高温になっており、消毒スタッフはやけどしないよう声掛けを行った。
- ・ フェイスシールドの着用については任意であったことに加え、イベント当日の気温が高かったため、着用率がとても少なかった。

5. マスクの統一ルール

- ・ 原則として関係者・来場者の全員が、会場内では不織布マスクを着用することとした。
- ・ 入場動線としては、検温を通過する前にマスク交換の声掛けをしていたため、全来場者に対して不織布マスク着用の呼び掛けができた。
- ・ 1名に限り、直近の政府からの屋外でのマスク不要という発表を受け、布マスクから不織布マスクへの交換を強く拒否する事案があり、トラブルに発展する恐れを考慮し周囲との距離を取っていただいたうえで入場をさせる事案があった。
- ・ 本イベントは交換用マスクを準備し、HP上での不織布マスク着用をお願いしているという状況から、不織布マスクを着用しない来場者に対し、入場をお断りするといった毅然とした対応も必要と思われる。

市販マスクの性能 (実測値)

● 人が装着した場合の吸い込み, 吐き出し時の性能



理研・坪倉先生の資料を基に内閣官房で編纂

内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室HP
R3年6月25日付け内閣府特命担当大臣会見資料より抜粋

6. CDF2022におけるコロナ対策実施の結果

- ・本対策業務の実施により、罹患疑い者との接触や新規感染者等が生じることなく、安全なイベント運営を行うことができた。

7. CDF2022における本調査研究の検証

高温下でのマスクの着用について

- ・熱中症予防として屋外でのマスク不着用を容認する方針が厚生労働省からも示されていることから、マスク着用を必須にするかどうか、不織布マスクに限定するかについては検討が必要。
- ・最低2m以上、人との距離が取れる場合に不着用を容認しているため、密集しやすいトークショー、ステージイベントの観客席等においてはやはり着用をお願いすべきである。

関係者の検温と出欠確認

- ・スタッフ・関係者の検温と当日の出欠確認のため、関係者用の検温所を設置する等の対応が必要。
- ・出展者のメンバー変更や人員の増減がある際には、事務局または感染対策スタッフへ変更の報告をする仕組みづくりが必要。

抗原検査の確実な実施

- ・前述の確実な出欠確認と合わせ、抗原検査の実施も確認し、未実施の方には救済措置としてその場で実施していただくのも方法の一つである。

入場・受付の混雑対策

- ・入場受付が混雑し検温所を一時的に閉鎖した際、検温を待つ来場者が日陰を求めて密集してしまったため、受付の効率化、待機・密集を避ける対策などを検討すべきである。

手配物、会場の様子

手配備品一覧

【関係者配布物】

備品	手配数	配布数	備考
フェイスシールド	300個	200個	出展社用+予備
不織布マスク（個包装）	50個	50個	関係者配布用
不織布マスク（個包装なし）	300個	279個	来場者配布用

感染症対策スタッフは
下記のビブスを着用



【検温所・コロナ対策チーム所持】

備品	数量	配布数	備考
非接触型サーモグラフィ	2	—	BS-K1TA70MI-T
ハンディタイプ非接触型検温機	10	—	
会場内検温所及び注意喚起看板	7	—	
防護服	3	—	
消毒液ボトル設置テーブル	6	—	
飛沫防止パネル	9	9	商談テーブル用
除菌シート（100枚入り）	10	—	
アルコール消毒液（プッシュポンプ） 500ml	84	—	商談テーブル/ビルダー/検温所
アルコール消毒液（ハンドスプレー）	10	—	対策スタッフ消毒作業用
携帯手指消毒液	10	—	対策スタッフが携行
感染症対策スタッフビブス	15	—	

手配納品物

▼抗原検査キット



▼検温所看板・注意喚起看板



▼救護所資機材



▼検温所



手配納品物

▼会場内の注意喚起サイン（2種類）



▼防護服



▼サーマルカメラ



▼フェイスシールド



▼消毒液



▼マスク（個包装あり／個包装なし）



会場の様子

▼検温の様子



▼配布用不織布マスク



▼出展社へフェイスシールド、マスク等配布



▼記入台へ消毒液、除菌シートの設置



▼ペン、テーブル除菌清掃



▼検温テント（2か所）



 三菱地所 presents
Tour of Japan 2022 

2022年5月19日（木）～5月22日（日）

実施概要

Tour of Japan 2022 実施概要

名称	UCI 公認国際自転車ロードレース 『三菱地所 presents Tour of Japan 2022 』（アジアツアー2.2）
主催	自転車月間推進協議会
主管	ツアー・オブ・ジャパン組織委員会（事務局：一般財団法人日本自転車普及協会）
競技主管	公益財団法人日本自転車競技連盟
後援	自転車活用推進議員連盟／自転車活用推進本部／内閣府／総務省／文部科学省／経済産業省／国土交通省／消費者庁／東京都／長野県／静岡県／神奈川県／公益財団法人JKA／健康日本21 推進全国連絡協議会
協力	飯田市／小山町（静岡県駿東郡）／相模原市／東京港埠頭株式会社
冠協賛	三菱地所株式会社
特別協賛	株式会社車両スポーツ映像（SPEED チャンネル）/日本トーター株式会社（T キャリ）
協賛	一般社団法人自転車協会/井上ゴム工業株式会社/株式会社Champion System Japan/THULE/ ヤマハ発動機株式会社/ガイドードリンコ株式会社/株式会社シマノ/MAVIC JAPAN 株式会社/ 株式会社NIPPO/株式会社ゼンリン/株式会社キナン/株式会社フカヤ/bryton Inc./ 株式会社マトリックス/メリダジャパン株式会社/大分市・OITA サイクルフェス実行委員会/ Global Ride/Honolulu Century Ride 2022/BRISBANE TO GOLD COAST CYCLE CHALLENGE 2022/ 株式会社オージーケーカプト/東京サンエス株式会社
出場チーム	全16 チーム(海外1 チーム、国内チーム15 チーム)
チーム構成	8名（選手5名/監督1名/メカニック1名/マッサー1名）
競技規則	UCI（国際自転車競技連合）規則及び本大会特別規則による
開催日程	2022年5月19日～2022年5月22日

**Tour of Japan2022における
感染症対策**

用語の定義

●新型コロナウイルス感染症

「新型コロナウイルス（SARS-CoV2）」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつか種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

ウイルスは粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけとされています。物の表面に付いたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつとされています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

●濃厚接触者

濃厚接触者は、新型コロナウイルスに感染が確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方を指します。

濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は、距離の近さと時間の長さです。

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1 m程度以内）で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。

新型コロナウイルス感染者から、ウイルスがうつる可能性がある期間（発症2日前から入院等をした日まで）に接触のあった方々について、関係性、接触の程度などについて、保健所が調査（積極的疫学調査）を行い、個別に濃厚接触者に該当するかどうか判断します。

なお、15分間、感染者と至近距離にいたとしても、マスクの有無、会話や歌唱など発声を伴う行動や対面での接触の有無など、「3密」の状況などにより、感染の可能性は大きく異なります。そのため、最終的に濃厚接触者にあたるかどうかは、このような具体的な状況をお伺いして判断します。

●隔離

症状のある人や感染者を他の人から隔離し、感染や汚染の広がりを防止するものです。

●フィジカル・ディスタンス

感染予防に特化した言葉で、テレワークや人数制限、人と人との十分な間隔を空けるといった「感染拡大の防止に向けて身体的・物理的距離の確保」を指します。

Tour of Japan2022における感染症対策

●感染確認に使用される検査

新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の細胞内にウイルスが存在しているかどうかを調べるための検査です。

(1)核酸検出検査

ウイルス遺伝子（核酸）を特異的に増幅するPCR（polymerase chain reaction）法が用いられます。

検体中に遺伝子が存在しているか否かを定量的に確認する方法として、リアルタイム RT-PCR、簡便かつ短時間で結果判定ができる核酸検出方法として、LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法やTMA（transcription mediated amplification）法等、等温で反応が進む簡易法が開発されています。

○リアルタイムRT-PCR

リアルタイム RT-PCR は定量法で、ウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性が高いです。

○リアルタイムRT-PCR 以外のLAMP法、TMA法等の等温核酸増幅法

LAMP法やTMA法等は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子の検出までの工程が短縮され一定温度で実施可能な遺伝子検出法です。リアルタイムRT-PCRと比較して感度は落ちますが実用範囲で、反応時間が35～50分程度と短いといった利点があります。

(2)抗原検査

SARS-CoV-2の構成成分である蛋白質を、ウイルスに特異的な抗体を用いて検出する検査法です。核酸検出検査と同様に陽性の場合にはウイルスが検体中に存在することを示します。

抗原検査には、定性検査と定量検査があり、抗原定性検査は有症状者においてウイルスの抗原を検知し、診断に導く検査であり、症状発症から9日目以内の症例では確定診断として用いることができます。

無症状者に対する抗原定性検査は、リアルタイム RT-PCR 法等と比較し感度が低下する可能性があるため、確定診断として用いることは推奨されません。

抗原定量検査は、専用の測定機器を用いてウイルス抗原の量を定量的に測定することができます。検査に抗原と抗体反応のウォッシュ過程があり、特異度も高く、感度も簡易な核酸検出検査と同レベルであり、無症状者に対する唾液を用いた検査に使用可能なことが示されているため、空港検疫等でも活用されています。

(3)抗体検査

抗体検査はウイルスを検出する検査ではなく、ウイルスに対する抗体の有無を調べる検査です。

陽性となる時期は症状出現後、1～3週間経ってからとされています。これはウイルスRNAが検出されなくなる時期と重なり、一般に感染歴の指標に使用されますが、抗体検査が陽性であっても、その時点で被検者からウイルスが排出されていることを意味するものではありません。

●バブル方式、レースバブル

スポーツ界で主に採用される、開催地や会場を大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する方法を「バブル」方式と呼びます。

自転車ロードレースにおいては、選手やチーム関係者のバブルを「チームバブル」、競技審判（コミセール）のバブルを「コミセールバブル」とし、合わせて「レースバブル」としています。

TOJ全体の対策事項

- (1)感染症対策チームの設置、帯同（医師を含む）。
- (2)TOJホームページにおける関係者・参加者・観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。
- (3)関係者・（観客を除く）参加者は、大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。
- (4)大会期間中は、バブル方式を取り入れた感染症防止対策を実施する。
バブル方式の内訳については、後述の「2. バブル方式によるコロナ対策」を参照。
また、大会で規定されたバブルに所属する参加者は、バブル毎に規定する後述項目3～5の対策事項を遵守する。
- (5)感染者発覚後の隔離（スペース確保を含む）、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化。
- (6)感染症罹患者が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る。
- (7)大会会場における入退場動線作成及びサーマルカメラ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (8)大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置。
- (9)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等 飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- (10)フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する。
- (11)各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える。
- (12)大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極カメーリングリストやSNSを使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。

Tour of Japan2022における感染症対策

(13)以下に該当する方は、大会へのいかなる参加（大会会場への来場、観戦含）も不可とする。

- ①過去1週間以内から大会会場来場当日までに、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
- ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記a～dに該当する方
 - a. 有症状で、発症日から10日未満、かつ症状軽快後72時間以内
 - b. 症状軽快後24時間経過から、24時間以上の間隔をあけ、2回のPCR検査で陰性を確認できていない
 - c. 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満
 - d. 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあけ、2回のPCR検査陰性を確認できていない
- ③濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中
- ④家族に①のa～dいずれかの体調不良者がいる

バブル方式によるコロナ対策

大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する対策を「バブル」方式という。バブルの内訳については、以下の通りとする。

(1)チームバブル

【対象】 TOJに参加する全チームの選手、監督、メカニック、マッサー、スタッフ、広報

(2)コミセールバブル

【対象】 TOJで全ステージを通して執務するコミセール

上記の(1)、(2)を合わせて「レースバブル」とする。

(3)セミバブル

【対象】 TOJ全ステージにおいて執務する関係者

- ーニュートラルサービス
- ーオフィシャルメカニック
- ーレースドクター
- ー大会ディレクター、事務局スタッフ
- ーレース実況、セレモニーMC
- ー設営・運営担当
- ー宿泊・輸送担当
- ー広報(メディア)担当
- ーライブストリーミング担当
- ーセレモニー担当
- ー競技計測担当
- ー新型コロナウイルス感染症対策チーム

(4)その他：バブル外

【対象】 (1)~(3)に含まれないすべての方

- ーレースバブルとの接触は原則不可とする
- ーやむを得ない事情がある場合は、三密（密閉・密集・密接）を避け、双方マスク着用の上、バブル外の方は更にフェイスガードを着用、フィジカル・ディスタンス2m以上を保ち、15分以内に留めること

チームバブル（選手、チームスタッフ、チーム広報）の対策事項

- チームバブルは、ロードレースの特性上、互いに「接触」を回避できない場面があるため、「接触」がある前提で、参加条件の順守、及び当日の感染対策を徹底する。
- (1)大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。
- (2)大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、チームバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内
 - ②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内
 - ③コロナ感染から6ヵ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過～9カ月以内
 - ④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明（ワクチン未接種の場合は必須）※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨
- (3)大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (4)チームメンバーは、大会期間中、常時マスク着用を必須（選手はレース中を除く）とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (5)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (6)レース前の出走サインは省略とし、ICタグのチェックで出走確認を行う。
- (7)レース補給地点へは決まった補給員のみ配置し、補給の際はマスク、手袋を着用する。
- (8)会場チームピット内は、基本的にチームメンバー以外の立ち入りは禁止。
- (9)チームピットや準備エリアにいる人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する。
- (10)レース中に唾や痰を吐くことは極力行わない。

チームバブル（選手、チームスタッフ、チーム広報）の対策事項

- (11)選手間のタオル、ボトルなどの共用はしない。
- (12)補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない。
- (13)表彰式では、表彰対象選手は、授与されるジャージを自ら着用、副賞等を持参の上、ステージに登壇する。
- (14)大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スライズボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (15)チームに帯同する広報スタッフ（フォトグラファーを含む）はチームバブルに属するため、一般メディア及び外部との接触は禁止としレース中、プレス車両への乗車及びコース上のフォトグラファー・エリアへの立ち入りは不可とする。
- (16)チーム広報として帯同し、複数チームの取材を予定している場合、事前に取材予定全チームから承諾を得ること。
- (17)チームカーには、チームに帯同しているチーム広報スタッフのみ同乗可能とし、「チームカー同乗申請書」を主催者に提出必須とする。
- (18)選手、チームスタッフがチームバブル外のメディアの取材を受ける際は、必ずマスクを着用し、取材者がマスク及びフェイスガードを着用していることを確認した上で、2m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (19)大会期間中、チームから新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、当該選手・スタッフ及び濃厚接触者は大会から除外とする。

コミセールバブルの対策事項

- コミセールバブルは、ロードレースの特性上、互いに「接触」を回避できない場面があるため、「接触」がある前提で、参加条件の順守、及び当日の感染対策を徹底する。

(1)大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。
大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。

(2)大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、コミセールバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。

- ①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内
- ②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内
- ③コロナ感染から6カ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過～9カ月以内
- ④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明（ワクチン未接種の場合は必須）

※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨

(3)大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにJCF担当者を通じ、コロナ対策チームへ連絡、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。

(4)コミセールは、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。

(5)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。

(6)コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。
また、私物や飲食物を車内に放置しない。

(7)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。

(8)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等
飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

(9)大会期間中、コミセールに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、該当者及び濃厚接触者は大会から除外とする。

セミバブル（大会関係者）の対策事項

- **セミバブルは、大会期間を通して、大会運営等や各種業務の執務を行うスタッフを指し、ロードレースの特性上、レースバブルとの「接触」を回避できない場面があるため、「接触」がある前提で、事前の抗原検査及び当日の感染対策を徹底する。**
 - (1)大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。
 - (2)大会で規定されたセミバブルに該当する参加者が、セミバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内
 - ②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内
 - ③コロナ感染から6ヵ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過～9カ月以内※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨
※ワクチン未接種の場合は、大会参加前3日以内にPCR検査で陰性を確認すること
 - (3)大会参加3日前に抗原検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前24時間以内に2度目の抗原検査を受け、陰性を確認する。
 - (4)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
 - (5)大会期間中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
 - (6)大会関係者は、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
 - (7)オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
 - (8)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
 - (9)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
 - (10)大会期間中、スタッフに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、該当者及び濃厚接触者は大会から除外とする。

取材・メディアの対策事項

TOJ取材において、**チームに帯同する「チーム広報」とその他の「メディア」は、明確に区別するものとし、**以下は、チーム広報を除く、一般メディア向けの対策事項とする。

- (1)大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたはWebで提出必須。
- (2)大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。
大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。
- (3)大会の取材をする方は、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内
 - ②コロナ感染後、ワクチン接種から7日経過（感染後6カ月を経過した場合、ワクチン1回接種が必要）～9カ月以内
 - ③コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内
 - ④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明（ワクチン接種を受けていない方は必須）※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨
- (4)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (5)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行う。
- (6)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及びADカードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する。
- (7)チームピットエリアは立ち入り禁止。
- (8)チームカーへの同乗取材禁止。
- (9)可能な限りチームバブルとの接触を避け、選手・チームスタッフ等に取材を行う際は、マスクとフェイスガード着用を必須とし、2m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (10)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスを十分に確保する。

Tour of Japan2022における感染症対策

- (11)プレス車両は、最大5名のみ乗車可能とし、乗車する際は、マスク着用を必須とし、乗車前に手指消毒を行い、車両内は座席の間隔を空けて着席し、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (12)撮影エリア（フォトグラファー・エリア）は、設定された人数制限及びT O J広報官の指示に従う。
- (13)スタート・フィニッシュのフォトグラファー・エリアは、最大5名まで入線可能とし、うち2名はオフィシャルフォトグラファーとする。
- (14)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (15)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

観客の対策事項

※大会会場来場7日前までに2回以上の新型コロナワクチン接種を推奨

- (1)TOJホームページに掲載するコロナ対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)大会会場入り口でサーモグラフィーによる検温を受け、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (4)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (5)大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが儲けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (6)大会会場及びコース沿道で周囲に人がいる場所では、常時マスク着用必須。
- (7)大会会場及びコース沿道で観戦する際は、大声での応援、発声等はしない。
- (8)大会会場及びコース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (9)大会会場やコース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (10)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際、必ずマスク着用の上、手指消毒行うこと。

Tour of Japan 2022における感染症対策

ガイドラインの作成

対策事項を記載した「Tour of Japan 2022開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を作成。TOJ公式WEBサイト等への掲載や、セミバブルへの配信によって、イベント大会前の周知を図った。

Tour of Japan 2022 開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

1. はじめに

本ガイドラインは、ツアーオブジャパン 2022(以下「TOJ」)を開催するにあたり、参加者における新型コロナウイルス感染症拡大防止、リスク軽減のための対策について、各機関の提言等を参考にTOJ開催に特化した、作成したものです。TOJに参加する皆様には、本ガイドラインに沿った予防対策を必ず実施いただくよう、お願いいたします。

なお、大会の開催に際しては、日本政府(厚生労働省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、JOC などを含む)または、開催地の各都府県の方針に従うことが大前提となります。また、大会参加・運営等に伴う移動・宿泊等に関しては、国土交通省・観光庁等、関連する諸機関の指針に準拠します。

(参考資料)

- 「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic - コロナウイルス/パンデミックに関連したロードシーズン再開にあたって守られるべき手順について」
国際自転車競技連合(以下UCI)
<https://www.uci.org/road/news/2020/covid-19-pandemic-how-to-return-to-cycling-events>
- 「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic - ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則 COVID-19 パンデミックの開催で」 - UCI
<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022-6WynW73KKKKR6A3yknDdR>
- 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」公益財団法人日本スポーツ協会
<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>
- 「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」公益財団法人日本自転車競技連盟
<https://cutt.ly/JCF guidelineaboutcovid19>
- 「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」 - 国土交通省
https://www.mlit.go.jp/kikkanni/kikkanni_tk_000018.html
- 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病例検査の指針」 - 厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

II. TOJ 開催における対策事項

1. TOJ 全体の対策事項

- (1) 感染症対策チームの設置、密着(密会を指す)。
- (2) TOJ ホームページにおける関係者・参加者・観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。
- (3) 関係者・観客を除く参加者は、大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年 5 月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (4) 大会開催中は、バブル方式を取り入れた感染症防止対策を実施する。
バブル方式の内訳については、後述の「2. バブル方式によるコロナ対策」を参照。
また、大会で規定されたバブルに所属する参加者は、バブル毎に規定する後述項目 3～5 の対策事項

1

項を遵守する。

- (5) 感染者発見後の隔離(スペース確保を含む)、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化。
- (6) 感染症罹患者が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る。
- (7) 大会会場における入場動線確保及びサーマルカメラ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (8) 大会会場の各所、手洗消毒液及び感染防止対策用喚起看板を配置。
- (9) 大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、空席の上、持ち帰りを徹底。
- (10) フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する。
- (11) 各食事会場、食事場においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える。
- (12) 大会コミュニケーション、スタートリスト、リザルト等は、極力メール/リンクリストや SNS を使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。
- (13) 以下に該当する方は、大会へのいかなる参加(大会会場への来場、観戦会)も不可とする。
①過去 1 週間以内から大会会場来場当日までに、下記 a～d を含む体調不良のある方
a. 体温 37.5℃以上
b. 強い倦怠感
c. 感冒様症状(咳、咽痛、息苦しさ等)
d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記 a～d に該当する方
a. 有症状で、発症日から 10 日未満、かつ症状軽快後 72 時間以内
b. 症状軽快後 24 時間経過から、24 時間以上の期間をあげ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない
c. 無症状者(病状保有者)では、陰性確認から 10 日未満
d. 検体採取日から 6 日経過後、24 時間以上の期間をあげ、2 回の PCR 検査陰性を確認できていない
③濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中
④家族に①の a～d ใดれづれかの体調不良者がいる

2. バブル方式によるコロナ対策

大きな浴で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する対策を「バブル方式」という。バブルの内訳については、以下の通りとする。

- (1) チームバブル
【対象】TOJ に参加する全チームの選手、監督、メカニック、マッシャー、スタッフ、広報
- (2) コミセールバブル
【対象】TOJ 全ステージを通して執務するコミセール
上記の(1)、(2)を含むバブルバブルとする。
- (3) セミバブル
【対象】TOJ 全ステージにおいて執務する関係者
- ニュートラルカーピス
- オフィシャルメカニック

2

レースドクター
大会ディレクター、事務局スタッフ
レース実況、セルモニーMC
旗番・運動指図
密着・検温担当
広報/メディア担当
ライブストリーミング担当
セルモニー担当
競技計測担当
- 新型コロナウイルス感染症対策チーム

(4) その他: バブル外
【対象】(1)～(3)に含まれないすべての方
レースバブルとの接触は原則不可とする
やむを得ない事情がある場合は、三密(密閉・密集・密接)を避け、双方マスク着用の上、バブル外の方は更にフェイスガードを着用、フィジカル・ディスタンス2m以上を確保し、15 分以内に留めること

3. チームバブル(選手、チームスタッフ、チーム広報)の対策事項

- (1) 大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年 5 月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (2) 大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、チームバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
① 2 回目のワクチン接種から 7 日経過～9 月以内
② コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 月以内
③ コロナ感染からの月経経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から 7 日経過～9 月以内
④ 大会参加前 2 日以内の PCR 検査陰性証明(ワクチン未接種の場合は必須)
※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨
- (3) 大会開催中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通知し、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (4) チームメンバーは、大会期間中、常時マスク着用を必須(選手はレース中を除く)とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (5) 大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (6) レース前の出走サインは省却とし、IC タグのチェックで出走確認を行う。
- (7) レース開始直前には決まった補給員の配置し、補給の際はマスク、手袋を着用する。
- (8) 会場チームピット内は、基本的にチームメンバー以外の立ち入りは禁止。
- (9) チームピットや準備エリアに入る人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する。
- (10) レース中や中絶や仮休憩などとは協力しない。
- (11) 選手席のアップリ、ボトルなどは指定場所以外に捨てない。
- (12) 補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない。
- (13) 表彰式では、表彰対象選手は、授与されるサージを着用し、観音等を所持の上、ステージに

3

登壇する。


- (14) 大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スウィートホール等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、空席の上、持ち帰りを徹底する。
- (15) チームに密着する広報スタッフ(フォトグラファーを含む)はチームバブルに属するため、一般メディア及び外部との接触は禁止とし、レース中、プレス車庫への乗車及びコース上のフォトグラフアーエリアへの立ち入りは不可とする。
- (16) チーム広報として密着し、複数チームの取材を予定している場合、事前に取材予定チームから承認を得ること。
- (17) チームカーには、チームに密着しているチーム広報スタッフのみ同乗可能とし、「チームカー同乗申請書」を主催者に提出必須とする。
- (18) 選手、チームスタッフがチームバブル外のメディアの取材を受ける際は、必ずマスクを着用し、取材者がマスク及びフェイスガードを着用していることを確認した上で、2m 以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (19) 大会期間中、チームから新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、当該選手・スタッフ及び濃厚接触者は大会から除外とする。

4. コミセールバブルの対策事項

- (1) 大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年 5 月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (2) 大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、コミセールバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
① 2 回目のワクチン接種から 7 日経過～9 月以内
② コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 月以内
③ コロナ感染からの月経経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から 7 日経過～9 月以内
④ 大会参加前 2 日以内の PCR 検査陰性証明(ワクチン未接種の場合は必須)
※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨
- (3) 大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに JCF 担当者を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (4) コミセールは、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (5) 大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (6) コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (7) 大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、空席の上、持ち帰りを徹底する。
- (8) 大会開催中、コミセールに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、当該者及び濃厚接触者は大会から除外とする。

4

Tour of Japan2022における感染症対策



5. セミバブル(大会関係者)の対策事項

(1)大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年 5 月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催前日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。

(2)大会で決定されたセミバブルに該当する参加者が、セミバブルに所属するは、以下のいずれかの条件を満たしていること。

- ①2 回目のワクチン接種から 7 日経過～9 か月以内
- ②コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 か月以内
- ③コロナ感染から 6 か月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から 7 日経過～9 か月以内

※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨

※ワクチン未接種の場合は、大会参加前3日以内に PCR 検査で陰性を確認すること

(3)大会参加 3 日前に抗原検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前 24 時間以内に 2 度目の抗原検査を受け、陰性を確認する。

(4)大会開催中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。

(5)大会開催中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、コロナ対策チームへ申し出、病状状態を確認の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。

(6)大会関係者は、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに消毒薬等の所持品の消毒も併せて行う。

(7)オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。

(8)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。

(9)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

(10)大会期間中、スタッフに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、該当者及び濃厚接触者は大会から除外とする。

6. 取材・メディアの対策事項

TOJ 取材において、チームに帯同する「チーム広報とその他のメディア」は、明確に区別するものとし、以下は、チーム広報を除く、一般メディア向けの対策事項とする。


(1)大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたは Web で提出必須。

(2)大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年 5 月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催前日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。

(3)大会の取材をする方は、以下のいずれかの条件を満たしていること。

- ①2 回目のワクチン接種から 7 日経過～9 か月以内
- ②コロナ感染後、ワクチン接種から 7 日経過(感染後 6 か月を経過した場合、ワクチン 1 回接種が必要)～9 か月以内

5



③コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 か月以内

④大会参加前 2 日以内の PCR 検査陽性証明(ワクチン接種を受けていない方は必須)

※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨

(4)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。

(5)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行う。

(6)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及び AD カードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する。

(7)チームビットエリアは立ち入り禁止。

(8)チームカーへの同乗取材禁止。

(9)可能な限りチームバブルとの接触を避け、選手・チームスタッフ等に取材を行う際は、マスクとフェイスガード着用を必須とし、2m 以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。

(10)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスを十分に確保する。

(11)プレス車両は、最大 5 名のみ乗車可能とし、乗車する際は、マスク着用を必須とし、乗車前に手指消毒を行い、車内は座席の間隔を空けて着席し、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない。

(12)撮影エリア(フォトグラフィックエリア)は、設定された人数制限及び TOJ 広報官の指示に従う。

(13)スタート・フィニッシュのフォトグラフィックエリアは、最大 5 名まで入場可能とし、うち 2 名はオフィシャルフォトグラファーとする。

(14)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。

(15)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

7. 観客の対策事項

※大会会場来場 7 日前までに 2 回目以上の新型コロナウイルスワクチン接種を推奨

(1)TOJ ホームページに掲載するコロナ対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。

(2)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。

(3)大会会場入り口でサーモグラフィによる検温を受け、発熱者や体調不良者は入場禁止。

(4)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。

(5)大会会場内のチームビットエリアやゾーニングが分けられたエリアへの立ち入り禁止。

(6)大会会場及びコース沿道で周囲に人がいる場所では、常時マスク着用必須。

(7)大会会場及びコース沿道で観戦する際は、大声での応援、発声等はしない。

(8)大会会場及びコース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。

(9)大会会場やコース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。


(10)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際、必ずマスク着用の上、手指消毒を行うこと。

III. TOJ 開催中止の判断基準(延期はしないものとする)

1. 日本政府より、大規模イベントの延期・自粛・中止要請が発令された場合。

2. UCI より、コロナ禍におけるレース大会の延期・自粛・中止要請が発令された場合。

6



3. 大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが 8 チーム以下になる場合。

(1)チーム内で新型コロナウイルス感染症罹患患者が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要となる場合。

(2)大会開催前に、日本政府が国際対策で指定する国や地域のレースに参加し、帰国後、待機期間が経っていない場合。

※国際対策による指定国・地域は、厚生労働省のホームページを参照
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00249.html

(3)選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1 チームの最低出場人数 4 名が確保できない場合。

4. 大会期間中に新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した場合。

5. その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合。

このガイドラインは 2022 年 4 月 15 日時点でのものであり、感染状況や政府の対策方針などにに基づき、適宜更新いたします。

7

健康観察報告の提出

●概要

レースバブル及びセミバブルに属するすべての方を対象とし、大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリ（テレサ）にて提出必須とする。

大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。

●使用媒体

毎日の検温や体調の記録をデータベース上で一括管理することができるアプリケーションソフト「テレサ-体温記録活用アプリ-」を使用。（開発元：株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ）

●対象

次の3つのカテゴリにて管理し、それぞれの対象者に利用案内マニュアルを配布。

レースバブル：選手／チーム関係者／審判

セミバブル：大会ディレクター／事務局スタッフ／設営・運営チーム／宿泊・輸送チーム／広報チーム／ライブストリーミングチーム／セレモニー担当チーム／新型コロナウイルス感染症対策チーム／ニュートラルサービス／オフィシャルメカニック／競技計測チームWEB担当チーム／レースドクター／リーダージャージ提供スポンサー

マーシャル：各都県自転車競技連盟

●備考

- ・セミバブルのみ抗原検査の画像アップロードを行い、次ページからの全6ページは、セミバブル用のマニュアルである。
- ・「レースバブル」「マーシャル」には、画像アップロード説明を省いたマニュアルを配布。

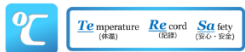
健康記録アプリ「テレサ」使用方法

テレサ使用説明書（セミバブル）

●「テレサ」とは？

「テレサ-体温記録活用アプリ」は、毎日の検温や体調の記録をデータベース上で一括管理することができるアプリケーションソフトです。（開発元：株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ）

Tour of Japan 2022では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本アプリを活用し、大会10日前から大会終了後5日間に亘り、皆様に検温及び健康記録の実施をお願いいたします。



●対象者

レースバブル：選手／チーム関係者／審判


セミバブル：大会ディレクター／事務局スタッフ／設営・運営チーム／宿泊・輸送チーム／広報チーム／ライブストリーミングチーム／セレモニー担当チーム／新型コロナウイルス感染症対策チーム／ニューtralサービス／オフィシャルメカニック／競技計測チーム
WEB担当チーム／レースディレクター／リターシャージ提供スポンサー

マーシャル：各都県自転車競技連盟

●アプリの事前登録 **5月5日までに**ご登録をお済ませください
登録方法は次のページをご確認ください

●使用期間 **5月8日（日）～ 5月27日（日）**

●入力内容

【事前のアプリ登録】	【毎日】	【特定日】
<ul style="list-style-type: none"> 基礎情報 ※1 会場入り予定日 <p>※1 入力された個人情報は、健康管理においてのみ使用するもので、第三者に開示することはありません。 ★5/5までに済ませてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の体温 問診回答 ※2 <p>※2 「37.5℃以上」あるいは「問診結果に異常がある」場合、「行動履歴」の設問が追加されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実施済みの抗原検査キット画像 


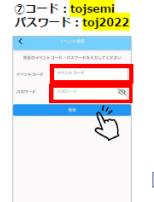

Tour of Japan 1

①アプリ登録（5/5までに登録をお願いします）

⑥「イベントコードをお持ちの方はこちら」

⑦コード：tojsemi
パスワード：toj2022

⑧「参加登録」


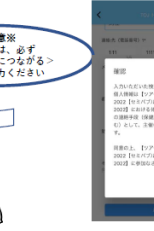




③ 必須情報の登録

⑥ 必須情報を入力し「送信」

⑧ 「OK」

※注意※
電話番号は、必ず大会期間中につながる番号をご入力ください


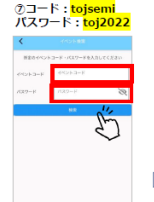

Tour of Japan 3

①アプリ登録（5/5までに登録をお願いします）

⑥「イベントコードをお持ちの方はこちら」

⑦コード：tojsemi
パスワード：toj2022

⑧「参加登録」


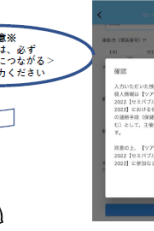




③ 必須情報の登録

⑥ 必須情報を入力し「送信」

⑧ 「OK」

※注意※
電話番号は、必ず大会期間中につながる番号をご入力ください

Tour of Japan 3

健康記録アプリ「テレサ」使用方法

②毎日の記録 (5/8~5/27)

記録のタイミング

大会期間外：毎朝10時まで 大会期間中：宿泊施設出発前

▼下記の手順で入力してください。

【1】検温入力



体温を選択し、確認をタップ

タップで入力

【2】問診入力

検温入力後、自動で問診画面へと遷移します



症状の有無を選択し、確認をタップ

登録完了！

Tour of Japan 4

③実施済み抗原検査キット画像のアップロード

アップロードのタイミング

1回目：大会会場入り3日前 (Anywhere迅速抗原検査)
2回目：大会会場入り24時間以内 (チェックMR-Cov19)

画像アップロードの手順

①ホーム画面から下記赤枠箇所をタップ

②下記赤枠箇所をタップし、画像をアップロード



アップロード完了！

Tour of Japan 5

Q&A

Q：いつまでに登録すればよいですか？
A：5月8日よりスムーズに検温及び問診をご入力いただくためにも、**5月5日までにアプリ登録**をお願いします。

なお、検温および問診の入力期間は、会場入りのタイミングにかかわらず、一律で**2022年5月8日(日)～5月27日(日)**です。

Q：入力した内容を変更するにはどうすればよいですか？
A：検温および問診の入力内容の修正が可能です。

検温→ホーム画面の右下「検温マーク」より、再度タップして入力してください。2回目以降の変更は、すべて2回目の検温結果として表示されます。

問診→履歴画面から「一覧」を選択し、「問診欄の数字」を選択してください。修正を行うことが可能です。

Q：画面下部に出てくる「入場コード」とは何ですか？
A：TOJでは使用しません。

Q：抗原検査はいつ実施すればよいですか？
A：送付した抗原検査キットの実施タイミングは下記のとおりでございます。キットは全種類ありますので、キット名をご確認のうえ実施してください。

- 1回目 実施日：会場入りの3日前
対象キット：Anywhere迅速抗原検査
- 2回目 実施日：会場入りの24時間以内
対象キット：チェックMR-Cov19

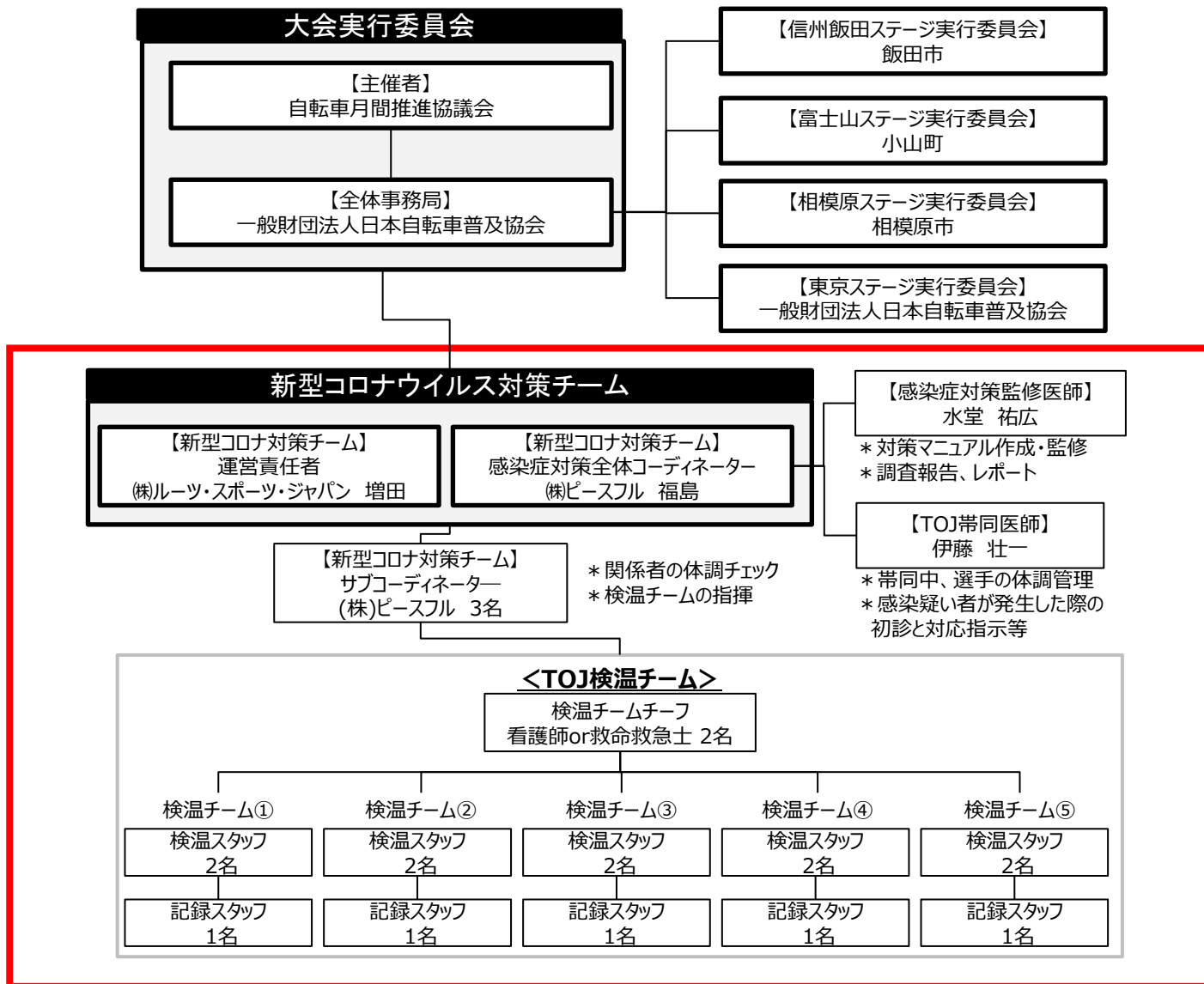
その他、テレサの利用につきましてご不明な点がございましたら、下記担当者までご連絡ください。

<担当者>
山本 yamamoto.misora@roots-sports.jp

Tour of Japan 6

感染対策チームの設置

感染対策チームの設置



感染対策チーム内の配置実績

事前

【役割】

- ・大会全体の感染対策の計画および感染症対策マニュアルの作成・監修、会議への出席等。

【体制】

- ・感染対策チーム運営責任者 1名 (株)ルーツ・スポーツ・ジャパン 増田
- ・感染症対策全体コーディネーター 1名 (株)ピースフル 福島
- ・感染症対策監修医師 1名 医療社団法人総生会 麻生総合病院 伊藤医師

当日

【役割】

- ・医師の帯同によるチームバブル内の感染対策、感染疑似症者の対応
- ・イベント会場における感染疑似症者の対応
- ・関係者への検温
- ・会場内の感染対策業務（除菌作業等）、会場付近の感染自粛のよびかけ

【体制】

- ・感染対策チーム運営責任者 1名 (株)ルーツ・スポーツ・ジャパン 増田
- ・感染症対策全体コーディネーター 5名 (株)ピースフル 福島 他3名
- ・帯同医師 1名 医療社団法人総生会 麻生総合病院
伊藤医師(～5/20)
水堂医師(5/21～)

感染対策チーム内の配置実績

検温チームの配置

(信州飯田ステージ)	検温ブース数	スタート／フィニッシュ会場 3 か所	
	検温スタッフ数	12名 (チーフ3名×1会場、スタッフ3名×3ブース)	
	感染対策巡回員	6名	
(富士山ステージ)	検温ブース数	スタート会場1か所 フィニッシュ会場1か所	計2か所
	検温スタッフ数	12名 (チーフ1名×2会場、スタッフ6名×1ブース1、スタッフ4名×1ブース)	
	感染対策巡回員	6名	
(相模原ステージ)	検温ブース数	スタート会場2か所 フィニッシュ会場2か所	計4か所
	検温スタッフ数	14名 (チーフ1名×2会場、スタッフ3名×4ブース)	
	感染対策巡回員	4名	
(東京ステージ)	検温ブース数	スタート／フィニッシュ会場2か所 (1か所に2ブースを設置)	計2か所
		品川駅バス乗り場1か所	
	検温スタッフ数	11名 (チーフ1名×2ヶ所、スタッフ3名×3ブース)	
	感染対策巡回員	7名	

【TOJ帯同コロナ対策チーム医師】

伊藤 壮一（いとう そういち）

[専門科目]

救急医学、災害医療（日本DMAT隊員）、蘇生学、医学教育学

[資格]

- 日本救急医学会救急専門医・指導医
- JPTECコース世話人・インストラクター
- JATECプロバイダー
- ICLSコースディレクター・インストラクター
- ISLSインストラクター
- 米国ABLSインストラクター
- 米国Team STEPPS train the trainer certification
- ケンブリッジ英検 first certification

[職歴]

- 東京女子医科大学第四内科入局
- 川崎市立川崎病院 総合診療科
- 川崎市立川崎病院 救命救急センター 副センター長
- 麻生総合病院 救急総合診療科 部長
- 医療社団法人総生会 麻生総合病院 救急総合診療科

【新型コロナウイルス感染症対策監修担当医師】

水堂 祐広（すいどう よしひろ）

[専門科目]

呼吸器内科、感染症内科、救急一般

[資格]

- 日本呼吸器学会、日本感染症学会専門医
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
- ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
- JMECCコースインストラクター
- ICLSインストラクターコースディレクター

[職歴]

- 川崎市立川崎病院 総合診療科・救急科
- 川崎市立井田病院 呼吸器内科
- 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科
- 藤沢市民病院 呼吸器内科
- 大和私立病院 呼吸器内科 藤沢市民病院 救急科兼任
- 麻生総合病院 救急総合診療科 内科兼任

感染対策チームの設置

【TOJ コロナ対策担当者】

所属		担当者名
主催者 (TOJ事務局/東京ステージ)	(一財)日本自転車普及協会	村山 吾郎
競技主管	(公財)日本自転車競技連盟	狩野 萌
信州飯田ステージ実行委員会	飯田市	小島 滉平
富士山ステージ実行委員会	小山町	鈴木 新一
相模原ステージ実行委員会	相模原市	川崎 翔太
新型コロナ対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル	福島 圭介
新型コロナ対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ・ジャパン	増田 英行

感染対策マニュアル作成

感染対策マニュアル作成

テクニカルガイドに付属した形で配布（全48ページ）



INDEX

■2021年大会からの変更点（抜粋）	3
■はじめに	4
本マニュアルの目的	4
用語の定義	4
■イベント主催者が行うべきこと	
1. グローバルリスク評価	6
2. パンデミックの評価	7
3. パンデミックの状況に応じた様々な対策	7
4. レースイベントを開催するために最適なこと	9
5. 情報の交換	11
■TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	
TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	12
開催期間中（各々の会場入り～22日）の注意点まとめ	19
■TOJにおけるバブル方式	20
■TOJ開催中止の判断基準	21
■検温・健康状態の記録	22
■テレサ使用説明書（セミバブル）	23
■コロナ対策チーム	
組織体制図	29
感染症専門家／医師	30
■コロナ対策連絡先一覧	
TOJコロナ対策担当者	31
各都県指定相談窓口・保健所	32
■各開催地における医療機関一覧	33
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場）	35
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場外）	36
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（陽性確定時）	37
■一般観客のTOJ観戦について	
TOJ観戦	38
各開催会場	38
■会場における検温所体制	
検温所の概要	39
信州飯田ステージ	40
富士山ステージ	41
相模原ステージ	42
東京ステージ	44
■会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）	45
■コロナ対策備品リスト	46
■参考・出典	48

Tour of Japan 2

会場における検温所体制

会場における検温所体制

●使用機材

検温所は2か所の会場入り口にテントを設営し、検温所・注意喚起看板、テーブル、手指消毒アルコールを設置し、サーモグラフィーカメラを使用して検温所を通過する来場者の検温を実施します。

検温所で 37.5℃ 以上を計測した場合には、体温計および問診票を使用して再検温を行います。



◀サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T

●人員配置

- ・検温所各テントには検温スタッフ2名、記録員1名を配置（※最低人員数。会場の規模によって増員。）
- ・記録員は、検温数の記録を行うことと、発熱を検出した際の来場者の確保および検温所への案内を行う
- ・会場内には感染防止対策会場スタッフ3名が巡回し、アルコール消毒の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視を行う
- ・再検温が必要な来場者がいる場合には、記録員が確保した来場者を感染防止対策会場スタッフが再検温所へ誘導する
- ・再検温所にはチーフ（医療従事者）を1名配置し、検温所で 37.5 以上を計測した場合に再検温及び体調等の問診を実施して感染の疑いがないかを判定します。

●検温フロー

検温および再検温では以下のフローに従って入場の可否を判断します。

<入場可能>

検温所 37.4℃ 以下

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題なし

<入場不可>

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題あり

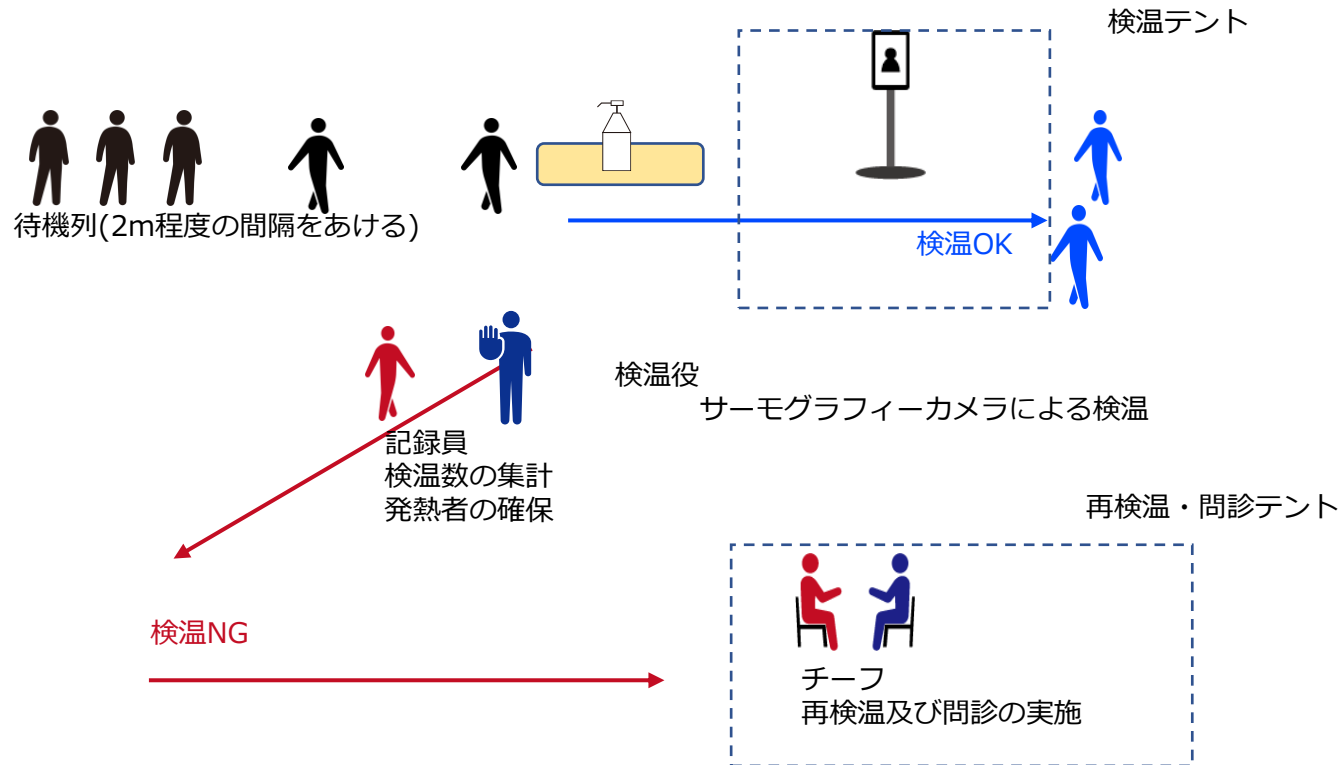
検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.5℃ 以上

●補足事項

- ・バブル内のメンバーは、毎朝アプリ（テレサ）での体温の提出義務があるため、検温所では検温せず通過可能（通過対象者の目印として、緑色のシリコンバンドを事前に配布）。
- ・本イベントでは原則不織布のサージカルマスクを着用することを基本としたため、入場時に布マスク、ウレタンマスクを着用している方にはサージカルマスクへの付け替えをお願いした

会場における検温所体制

●検温所レイアウト



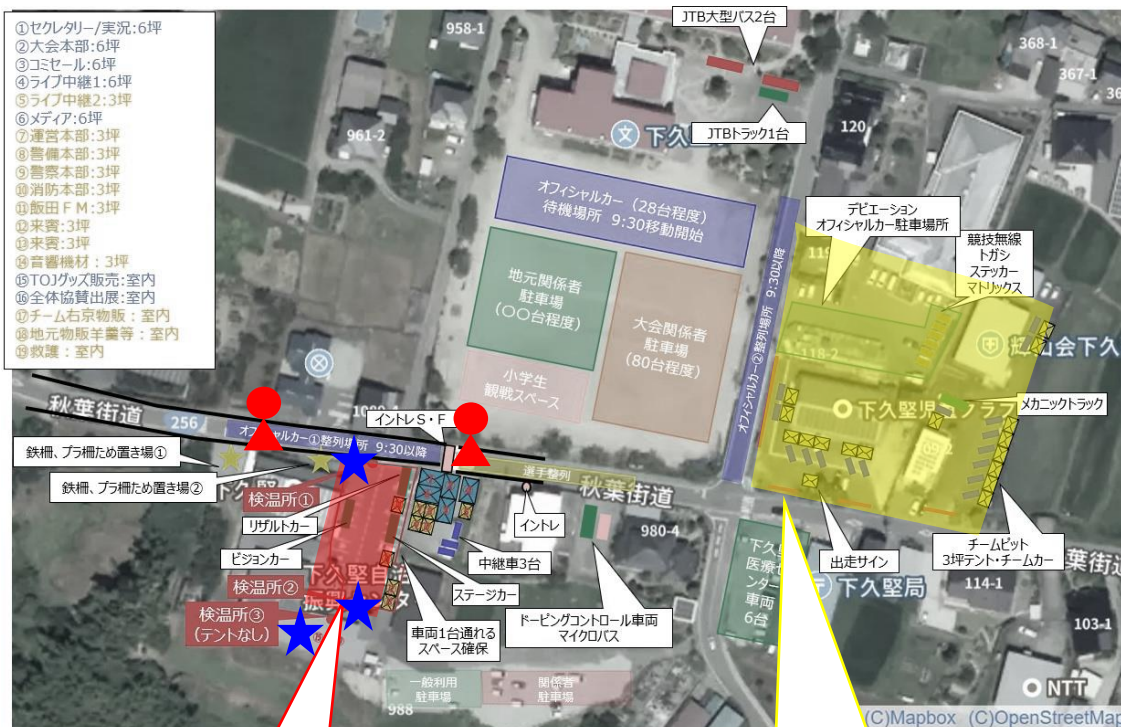
会場における検温所体制

● 信州飯田ステージ

スタート/フィニッシュ

★ : 検温所

● : 感染対策アナウンス



【赤色内】
観客来場エリア

【黄色内】
レースバブル/セミバブル
活動エリア

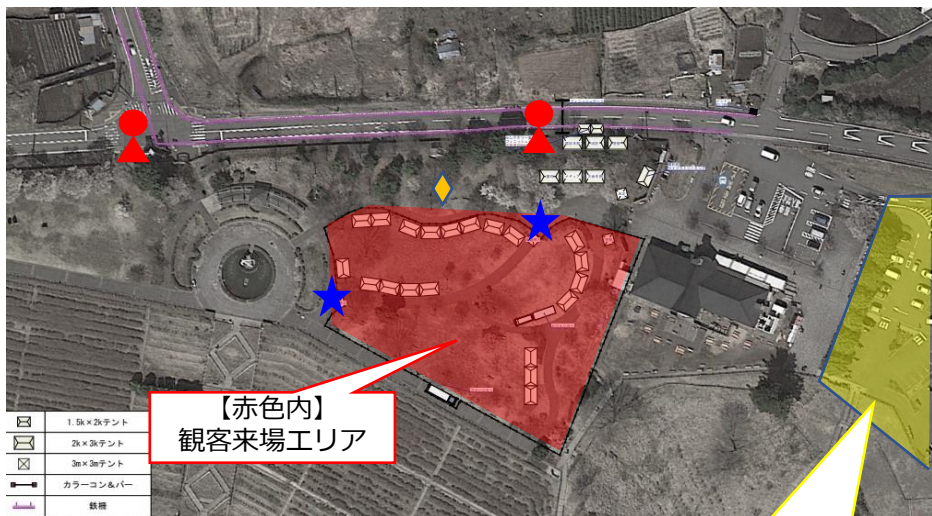
会場における検温所体制

●相模原ステージ

★	: 感染対策テント
★	: 検温所
● ▲	: 感染対策アナウンス
◇	: 再検温テント (場内救護)

スタート

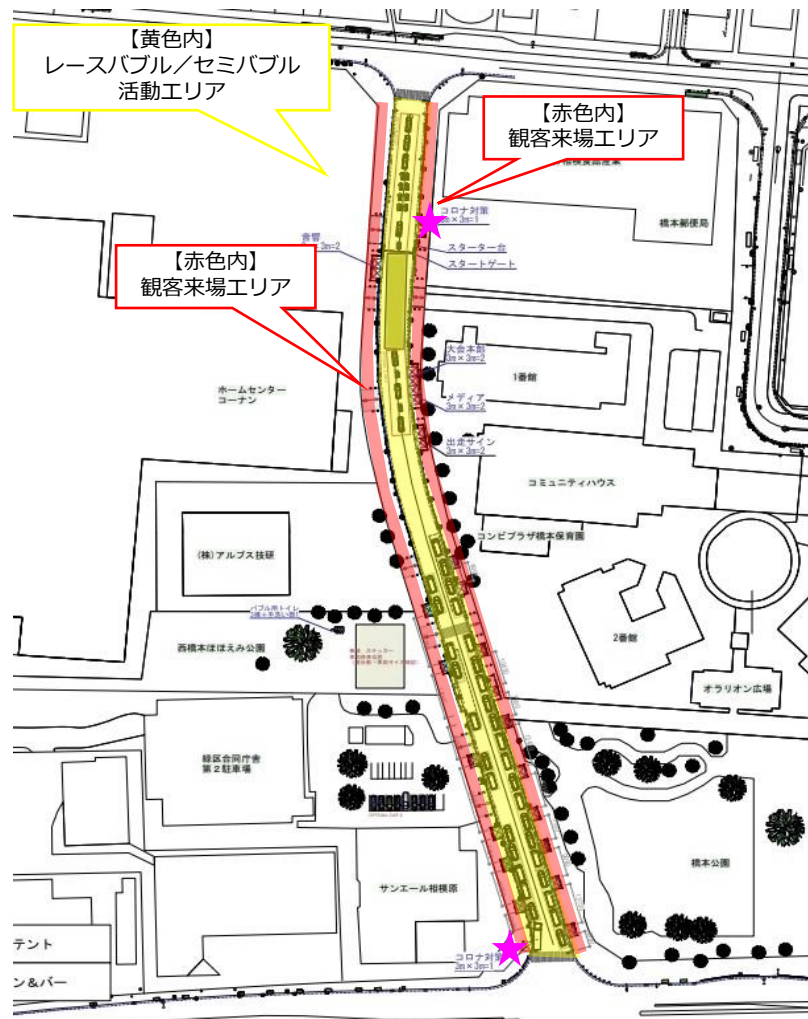
フィニッシュ



☐	1.5k × 2k テント
☐	2k × 3k テント
☐	3k × 3k テント
☐	カラーコン&バー
☐	鉄骨

【赤色内】
観客来場エリア

【黄色内】
レースバブル/セミバブル
活動エリア



【黄色内】
レースバブル/セミバブル
活動エリア

【赤色内】
観客来場エリア

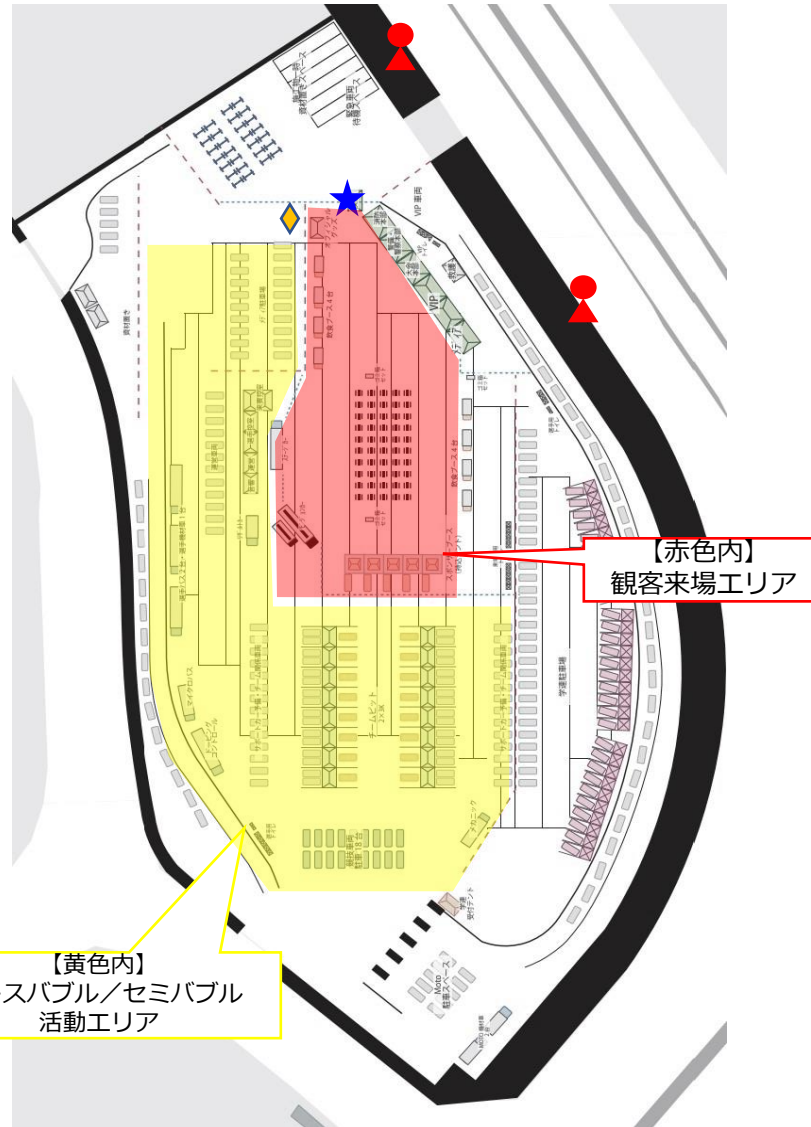
【赤色内】
観客来場エリア

会場における検温所体制

●東京ステージ

スタート/フィニッシュ

- ★ : 検温所
- ▲ : 感染対策アナウンス
- ◆ : 再検温テント (場内救護)



【赤色内】
観客来場エリア

【黄色内】
レースバブル/セミバブル
活動エリア

結果報告

事前PCR検査、抗原検査体制と結果

Tour of Japanでは、各バブルにおいて下記の通り大会前の検査を行い、陰性が確認できた者のみが参加（業務に従事）できるものとした。

●チームバブル

大会参加前72時間以内にPCR検査を実施

●コミセールバブル

大会参加前72時間以内にPCR検査を実施

●セミバブル

大会参加3日前と24時間以内に2回抗原検査検査を実施

●方法

セミバブルについては、2種の検査キットを担当セクションごとまたは本人自宅に郵送で送り、自身の検査結果を写真に撮影してテレサへアップロードした。

チームバブル、コミセールバブルについては、各チームまたは(公財)日本自転車競技連盟の責任でPCR検査を実施し、陰性結果を主催者へ報告した。

●結果

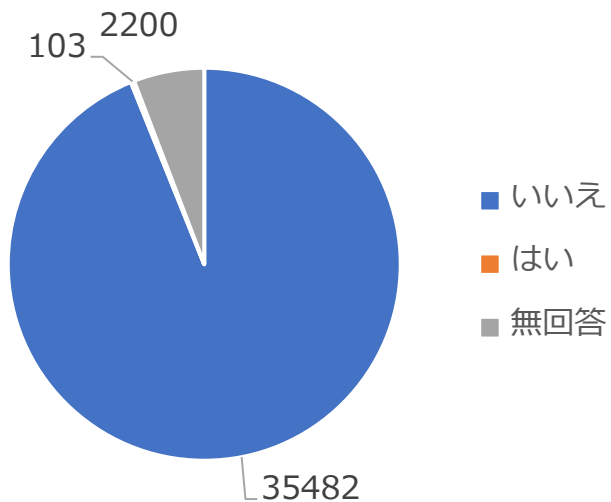
	PCR検査実施数	うち陽性	抗原検査1回目	抗原検査2回目	うち陽性
チームバブル	128件	0件 (陽性率0%)	—	—	
コミセールバブル	41件	0件 (陽性率0%)	—	—	
セミバブル	—	—	131件	131件	0件 (陽性率0%)

健康観察報告アプリの結果

●フォーム回答結果

回答が“はい” = 異常あり、“いいえ” = 異常なし

▼チームバブル(170名)



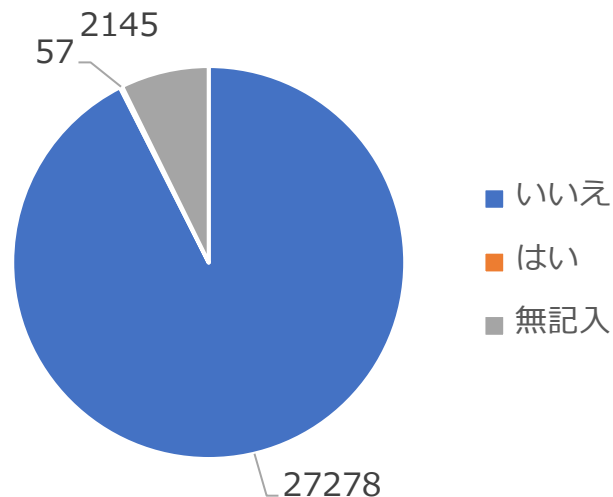
回答数 : 35,585件

回答率 : 94.177%

“いいえ”回答数 : 35,482件

“はい”回答数 : 103件

▼セミバブル(177名)



回答数 : 27,335件

回答率 : 92.53%

“いいえ”回答数 : 27,278件

“はい”回答数 : 57件

各会場における検温所 集計結果

5/19 信州飯田ステージ

	沿道側検温	駐車場側検温	物販検温	1日合計
検温通過人数	304	77	180	561
マスク未着用者数	0	0	1	1
不織布マスク未着用者数	66	9	38	113
マスク配布	56	9	38	103
再検温人数	0	0	0	0
再検温→入場不可	0	0	0	0
特記				

5/20 富士山ステージ

	メイン会場検温	ゴール地点テント	1日合計
検温通過人数	308	52	360
マスク未着用者数	0	3	3
不織布マスク未着用者数	43	12	55
マスク配布	37	15	52
再検温人数	0	0	0
再検温→入場不可	0	0	0
特記			

5/21 相模原ステージ

	スタート地点テント	会場北検温	会場南検温	1日合計
検温通過人数	183	520	67	770
マスク未着用者数	2	14	7	23
不織布マスク未着用者数	0	65	137	202
マスク配布	2	70	125	197
再検温人数	0	0	0	0
再検温→入場不可	0	0	0	0
特記			バス乗車時に検温を済み ウレタンマスク着用者多数	

各会場における検温所 集計結果

5/22 東京ステージ

	会場検温	品川駅バス検温	1日合計
検温通過人数	2829	572	3401
マスク未着用者数	5	0	5
不織布マスク未着用者数	410	48	458
マスク配布	391	48	439
再検温人数	0	0	0
再検温→入場不可	0	0	0
特記			

5/19~5/22

	合計
検温通過人数	5092
マスク未着用者数	32
不織布マスク未着用者数	828
マスク配布	791
再検温人数	0
再検温→入場不可	0
特記	

検温所前で不織布マスク確認を行うスタッフ



布マスクの来場者にマスク交換を依頼



2022年大会における開催期間中の罹患疑い、体調不良等の個別対応は無し

考察まとめ (1/4)

1. 検査体制

- ・セミバブルは現場入り3日前と現場入り24時間以内の2回抗原検査を実施し、結果はすべて陰性であった。
- ・5/18に伊藤医師の現場入り以降は、厚生省認可キットを医師が携行し、体調不良者の発生時に迅速に検査ができる体制を整えた。
- ・抗原検査にあたっては、各自が実施した結果を撮影したものを健康チェックアプリのテレサにアップロードする形式を執った。
PCR検査のように検体採取後に発送等のタイムラグがないため、結果がすぐわかるという点は大きなメリットだが、適正に実施したかどうかを確認する術がない点は他の検査も同様であるがデメリットである。

2. 行動履歴と健康観察入力

- ・回答率は90%を超えているが、現場入り後に多忙なためか回答率が低下してしまう。開催期間中を含めて回答率100%を目指すとしたら事務局体制の強化が必要であり、各団体への催促連絡頻度を上げる事が不可欠である。今回はテレサのプッシュ通知機能により、入力漏れが少なくなった印象である。
- ・体調不良の回答がごく少数見られたが、病的な意味合いではなく日々の就労に対する疲れなどについて回答してしまっている傾向があった。
- ・昨年使用したGoogleフォームと比較し、データ未入力者のソート機能などにより管理効率が向上した。また、写真アップロード機能を活用し抗原検査結果の受取は個人のアカウントに紐づくため、確認作業を容易に行うことができた。
- ・アプリストアのリージョン規制により、海外選手のアプリ利用に際しては不具合が生じるため、次年度以降もアプリを使用する際は海外対応の有無についても精査する必要がある。

3. 各会場の検温所

<検温機器について>

使用した機器については、迅速に顔を認識し自動で検温を実施するため、前年使用したハンディータイプのサーモグラフィーと比べ検温スタッフによるマスクのチェックの精度が向上した。

また、来場者数が最多の東京ステージにあっては、延べ2800人以上を4台のカメラにて処理することができた。

ただし一時的ではあるが、一斉に観客がステージ前に移動した際には、5~10分間ほど若干の検温待機列が発生した。

<テント設置>

屋外にて検温業務を行うにあたり、日陰での検温が必須となり、時間帯で光の角度により若干測定に影響することがあった。

また、相模原ステージでは雨が強く降り、機器の雨よけという点でもテントの設置は必須であった（テントにより雨による機器への影響はなかった）。

考察まとめ (2/4)

<不織布マスク付け替えについて>

イベントの運営方針として不織布のサージカルマスクの着用が必要であることの認知度が低く、その他のマスクを着用されている方に、頻繁にお声がけする状況であった。

特に相模原ステージでは、バスにて来場した方の不織布マスク着用率が低かったため、検温所にてマスク交換の列ができていた状況であった。次回もマスク着用とする場合、大会HPのほか、各開催地での広報、地元自治体のHP等への掲載などで周知するなどの対策を検討すべきである。

<会場における入口と出口の動線分けについて>

検温所を会場の入口、検温所付近にゾーニング用の柵を設置している会場では、柵の一部を開けて出口として運用した。しかし、会場レイアウトの関係で出口が設けられないステージでは、検温所テント内で出入りする来場者が交錯する場面が見られた。出口から人が入ってしまう恐れもあるが、可能な限り入口と出口の動線を分けることが望ましい。

4. 陽性者発生時の対応

<陽性者発生時の「濃厚接触者疑い」の抽出>

濃厚接触者の判定は、最終的に管轄の保健所により行われるが、それには若干のタイムラグが発生する（1～2日程度要することもある）。短期間のイベントにおいては、早期に主催者にて「濃厚接触者疑い」の者を抽出し、ただちに隔離、帰宅させる等の対応について判断しなければならない。それには、事前にイベントに応じた濃厚接触者の考え方を協議し、定義しておく必要がある。

ただ、この判断にはレース等イベントへの参加を断念させるなど、その後の当該者の行動を制限することにもなるため、そのような事態が発生することを周知し事前の承諾などを得ることが望ましい。

具体例として、「TOJにおける濃厚接触者の抽出についての同意事項」といった書面を作成し、レースバブル内に陽性者が発生した場合、保健所の方針が出る前に主催者判断により濃厚接触を判断し大会への参加を許可しない場合があることに同意を得られるとよい。その際、具体的な濃厚接触者該当例を例示しておくことよい（厚労省で定める濃厚接触者定義に該当する場合のほか、「同チームであること、相部屋で宿泊していた、レースにて近距離で長時間走行していた」など）。

<陽性者発生時の主催者による公表方法等について>

イベントの参加者、関係者に陽性者が発生した場合、イベント参加者に対しHP等による公表要否の判断が求められる。公表については時と場合により判断が難しいが、原則として事実関係を速やかに公表することで、イベント参加者等の当事者へ注意喚起となり、早めの検査実施などにつながり、その後の関連クラスター発生リスクを低減できる可能性がある。公表の仕方などは事前に主催者及びコロナ対策チームで協議しておくことが望ましい。

5. TOJ2022におけるコロナ対策実施の結果

- ・本対策業務の実施により、TOJ大会期間中～終了後において、新規感染者が生じることなく、安全なレース運営を行うことができた。

考察まとめ (3/4)

6. TOJ2022における本調査研究の検証

2021大会からの改善点と比較・考察

■検査体制

2021大会 レースバブル・セミバブル全員、現地入りの72時間前のPCR検査と現地入り直前の抗原検査の実施

2022大会 レースバブル：ワクチン2回接種により検査対象から除外
セミバブル：現地入りの72時間前および直前の抗原検査

<考察>

UCIコロナプロトコルに従い、チームバブルはワクチン2回以上接種を条件にPCR及び抗原検査対象から除外したが、開催直前の感染状況によっては、検査の実施を検討してもよいのではないかと考える。セミバブルがPCR検査+抗原検査から抗原検査2回に変更されたが、薬事承認を得たキットの利用で有効性も示されていることから、2022の方式で問題ないとする。

■行動履歴と健康観察入力

2021大会 Googleフォームを使用し大会2週間前から記録
GoogleフォームURLのQRコードと入力手順書を配布
入力漏れは帳票を確認し、個人へ電話連絡
抗原検査結果は陽性/陰性を入力
国内/国外関係なく入力可能

2022大会 健康管理アプリ「テレサ」を使用し大会10日前から記録
iOS/アンドロイド別のアプリストアURLのQRコードと登録手順書を配布
入力漏れはアプリのプッシュ通知にて入力を促進
抗原検査結果はテストプレートの判定を写真撮影しアップロード
(アプリストアのリージョン規制により日本版は問題なく運用可能であった。しかし、海外在住の方はアプリの利用ができず、2021年同様、Googleフォームを使用した。)

<考察>

今回、健康観察のために導入したテレサは、前回のGoogleフォームと比較し、入力状況の確認や入力が漏れている人へプッシュ通知するといった機能により、管理のしやすさが格段に向上した。しかし、アプリの仕様上、海外対応しておらず、急遽Googleフォームを使用する必要も生じた。次年度以降も健康管理、報告を大会参加条件とする場合には、アプリ選定の際に記録内容やその他の機能に加え、海外でも使用できるかという点も確認をする必要がある。

考察まとめ (4/4)

■ 検温所

2021大会 ハンディタイプのサーモグラフィ検温機器を用いての検温

2022大会 自立型・消毒噴霧装置付のサーモグラフィ検温機器を用いての検温

<考察>

検温機としての性能はどちらのタイプも遜色がなく、検温所のレイアウトにはそれぞれの工夫が必要はあったがどちらも支障はなかった。労力としては、ハンディタイプが1台につき1人のスタッフが必要なのに対し、自立式であれば1台～最大3台ぐらいまで、1人で対応することができることから効率的である。

手配物、会場の様子

手配備品一覧

【関係者配布物】

備品	数量	備考
ハンディタイプ非接触型検温機	16	-各チーム1個（16チーム）希望制
消毒液噴霧器（ボトル）	83	-出場チーム16本 -設営運営チーム10本 -宿泊輸送チーム10本 -広報チーム3本 -主催者6本 -他運営会社や会場内設置38本
消毒液噴霧器（トリガータイプ）	10	-全体予備10本
飛沫防止パネル	9	-ライセンスコントロール3枚 -ツアーデスク2枚 -実況席3枚 -予備1枚
フェイスシールド	1,580	「設営・運営」「宿泊輸送」「広報業務」「出場チーム」「主催者」へ日数配布 * 個包装マスクは検温所にて 不織布マスク以外の方へ配布
マスク	1,580	
個包装マスク	630	
ゴム手袋	1,520	

【帯同医師診察・検査キット】 * 伊藤医師が所持

備品	数量	備考
救急セット	1式	体調不良者対応用
緊急抗原検査キット	1式	現地での検査用 * 会場内、宿泊先を想定

備品一覧

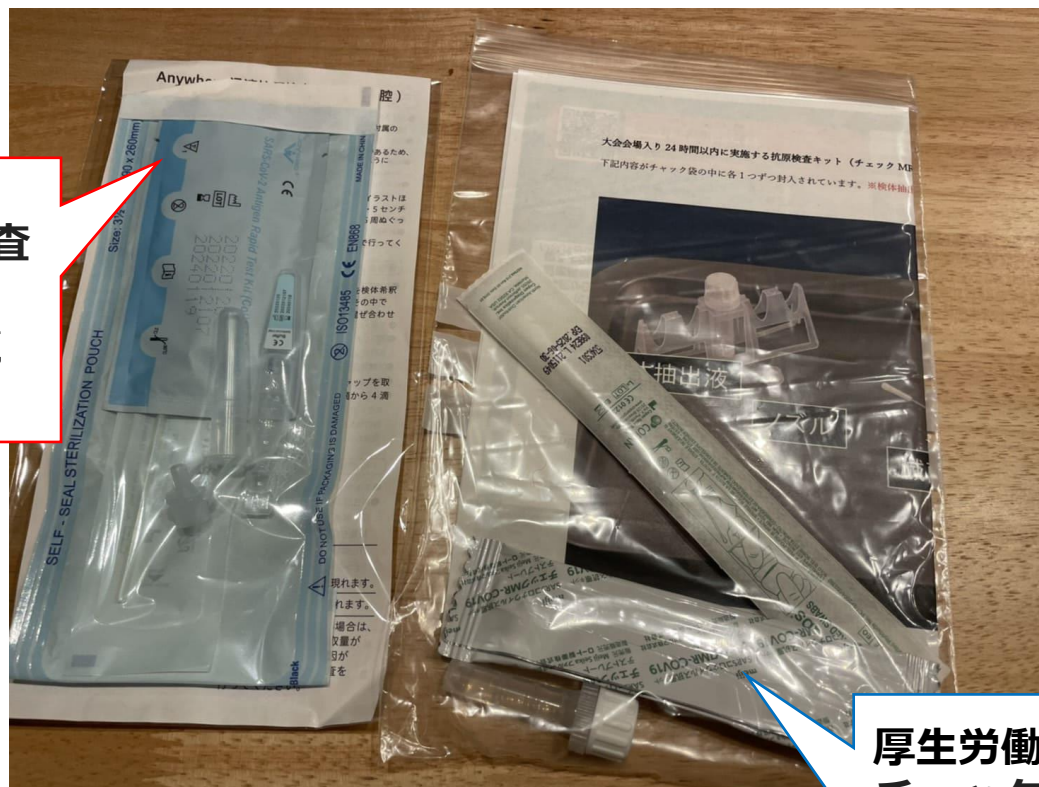
【検温所・コロナ対策チーム所持】

備品	数量	備考
サーマルカメラ (BS-K1TA70MI-T)	6	2022年購入分 (メイン利用)
非接触型サーモグラフィ (FLIR E4-XT)	2	2021年購入分 (予備利用)
ハンディタイプ非接触型検温機	適量	貸出希望が無かった分を活用
会場内検温所及び注意喚起看板	13	
防護服	10	
除菌シート (100枚入り)	100	
会場内検温所テント	5	テーブル込
消毒液噴霧器 (トリガータイプ)	10	感染対策チーム場内消毒用
TOJ感染症対策スタッフビブス	100	23名×4日分+予備

抗原検査キット(セミバブル)

Anywhere迅速抗原検査

会場入りの3日前に実施



厚生労働省認可検査キット
チェックMR-Cov19

会場入りの24時間以内に
実施

手配納品物

【配布物（チーム関係者・大会関係者）】

コミセールバブル：コミセール会議にて配布 セミバブル：大会事務局 /大会事務局（飯田文化会館内）にて配布
チームバブル：監督会議にて配布

▼マスク・ゴム手袋・フェイスシールド・アルコール消毒液・リストバンド（検温所通過可能）



▼車両キット



▼非接触検温器（希望するチームへの貸与用）



手配納品物

【現場】

▼ 検温所テント



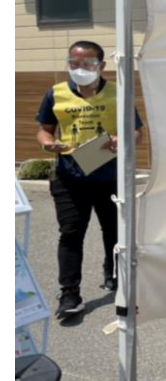
▼ 再検温所テント・COVIDテント



▼ プラカード



▼ 感染症対策スタッフビブス着用の様子



サーマルカメラ▲
(Bitstrong社 BS-K1TA70MI-T)

▼ 防護服及び感染症対策スタッフビブス着用の様子



▼ 検温所・注意喚起看板



信州飯田ステージの様子

▼検温所



▼グッズ販売入り口検温



▼ブリーフィング



▼プラカード (コース沿道で観客向けに掲出)



▼スタート前のマスク回収の様子



富士山ステージの様子

▼検温所



▼再検温所・COVIDテント



▼プラカード（コース沿道で観客向けに掲出）



▼消毒済みサインペンのお渡し



▼使用済みサインペンの回収



▼定期的な消毒の様子



相模原ステージの様子

▼COVIDテント（スタート地点）



▼プラカード（スタート地点）



▼検温所（フィニッシュ地点）



▼ステージ周辺のゾーニング



▼シャトルバスでの問診票（フィニッシュ地点）

2022年5月21日(土)		下記○をつけて下さい	
号車番号	11号車	ビトン【0 \$0】	高尾第一区隊
座席番号（ご記入ください）		ビストン【 】	園第一区隊
ビストン及び高尾第一区隊 出場時刻をご記入ください		ビストン【 】	日本第一区隊
お名前			
連絡先（携帯）			
乗車時の体温		℃	
上記内容に同意します <input type="checkbox"/>			
※本大会は、万が一の感染予防対策として、 大会期間中、会場内、及び会場周辺に、 1.5メートル以上、発熱が認められ、 呼吸器症状が認められる場合は、出場を中止し、 一旦会場を離れ、適切な医療機関を受診していただきます。 上記内容に同意します <input type="checkbox"/>			

東京ステージの様子

▼検温所



▼再検温所・COVIDテント



▼プラカード (コース沿道・会場内にて観客向けに掲出)



▼消毒の様子





HANDMADE BICYCLE 2023

2023年1月21日（土）、22日（日）

実施概要

2023ハンドメイドバイシクル展 実施概要

- 開催日 : 2023年1月21日（土）・22日（日）
- 開催時間 : 21日 10:00～16:50／22日 9:30～16:30
- 会場 : 科学技術館催物場（1～5号館）（<http://www.jsf.or.jp/access/map/>）
- 主催 : （一財）日本自転車普及協会 自転車文化センター
- 後援 : 自転車活用推進議員連盟／自転車活用推進本部
- 展示内容 : 国内外ハンドメイドバイシクルビルダー、パーツメーカーが経験と実力で生み出した「独創性あふれる自転車」や斬新な機構を取り入れた「独創性の高いパーツ」の展示、自転車ビルダー、スペシャルゲストによる「トークショー」など様々な企画を実施。
- トークイベント等 : ハンドメイドビルダー及び著名人によるトークイベントを開催。
※本年よりトークショーの配信視聴のみ有料（現地での観覧は無料／人数制限有）
- 入場料 : 無料（科学技術館への入場は有料）

出展社（ビルダー）一覧

atelier KINOPIO（アトリエ・キノピオ）

Abukuma（あぶくま）
あぶくま自転車工房

アマンダスポーツ（アマンダスポーツ）

WELD ONE（ウェルドワン）

EQUILIBRIUM（エクイリブリウム）
エクイリブリウム サイクルワークス

ENMA Bicycle Works
（エンマバイシクルワークス）
株式会社エンマバイシクルワークス

Emmeakka（エンメアッカ）
ピチスポーツモリアイ

GRANDBOIS（グランボア）
サイクルグランボア株式会社

CHERUBIM（ケルビム）
有限会社今野製作所

GOKISO（ゴキソ）
株式会社近藤機械製作所

COLUMBUS（コロンプス）
株式会社日直商会

サイクルストアーオカダ

Sanomagicマホガニーバイク
（サノマジックマホガニーバイク）
Sanomagic

SHIZTECH（シズテック）

シルク サイクル
絹 自転車製作所

Shin（シン）
Shin・服部製作所

SOYOTYRE
（ソーヨータイヤ）
大和紡績株式会社

TATSUMI SHOKAI
（タツミショウカイ）
有限会社たつみ商会

TOEI（トウエイ）
東叡社

東京サイクルデザイン専門学校
（トウキョウサイクルデザインセンモンガッコウ）
学校法人水野学園 東京サイクルデザイン専門学校

東京サンエス（トウキョウサンエス）
東京サンエス株式会社

Dobbat's（ドバッツ）
ドバッツ・ライン・ハウス

NITTO（ニットウ）
株式会社日東

BIKE&HIKE（バイクアンドハイク）

Bakansucycles（バカンスサイクルズ）

PATTO BIKE（パットバイク）
平和技術研究所

Panasonic（パナソニック）
パナソニック サイクルテック株式会社

BIXXIS（ビクシズ）
BIXXIS JAPAN（合同会社ラ・メッカ）

BYOB Factory Tokyo
（ビョブファクトリートウキョウ）

5 LINKS（ファイブリンクス）
合同会社5 LINKS

フジチカ
有限会社フジチカ

HELAVNA（ヘラブナ）
Helavna Cycles

HONJO（ホンジョ）
株式会社本所工研

MAKINO（マキノ）
有限会社エム、マキノサイクルファクトリー

MONTSON（モンソン）
山音製輪所

ラクラクーン
堀田製作所

RAVANELLO（ラバネロ）
プロショップ タカムラ製作所

LEVEL（レベル）
マツダ自転車工場

全38社

**2023ハンドメイドバイシクル展における
感染症対策**

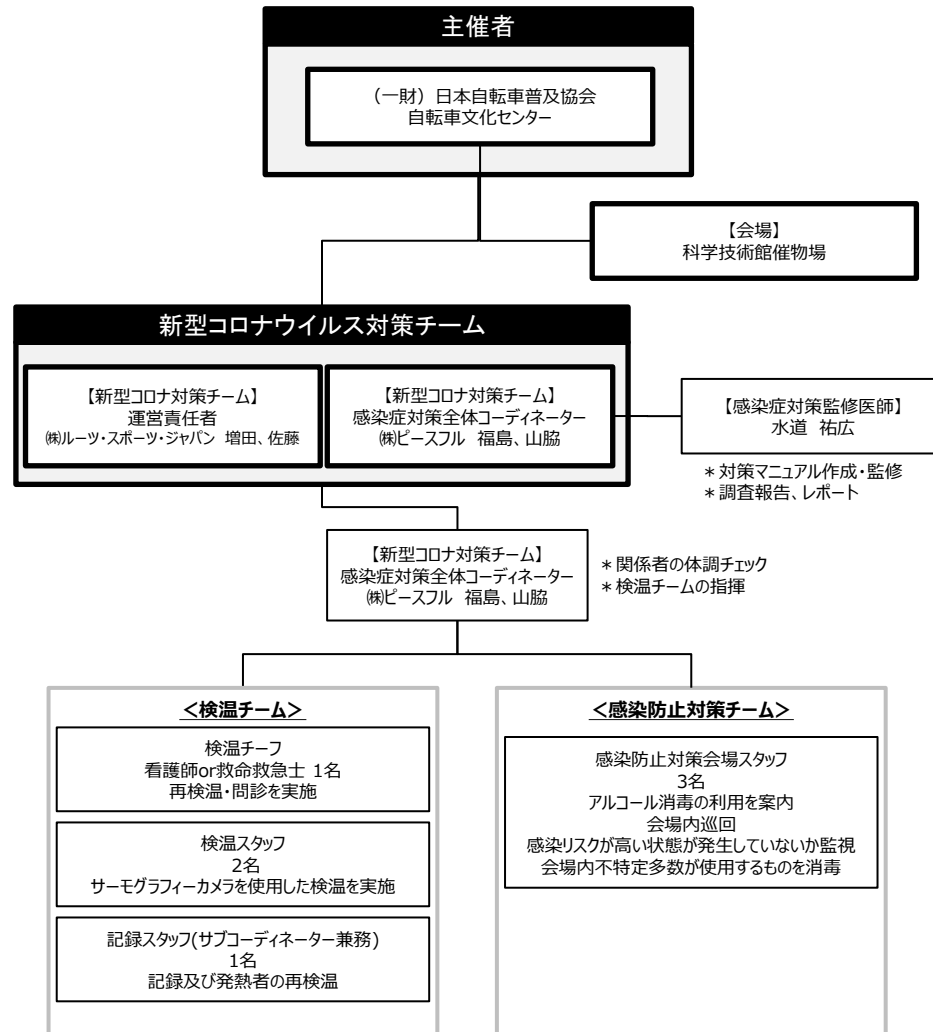
感染対策実施の概要（感染対策マニュアル抜粋）

- (1) 感染症対策チームの設置、帯同
- (2) HMBホームページにおいて関係者・来場者に向けた本ガイドラインの掲載及び周知
- (3) 関係者は、イベント開催1週間前から体調チェックを行い、会場入りをする前日までの記録を所定の用紙にて提出
- (4) 関係者は、イベント終了後1週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告し、濃厚接触者等の確認を行う
- (5) イベントで規定された関係者は、会場入り日の24時間以内に抗原検査（定性または定量）を受け、陰性を確認
- (6) 感染者発覚後の隔離（スペース確保を含む）、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化
- (7) 感染症罹患者が発生した場合に備え、東京都内の医療機関や保健所と連携を図る
- (8) 会場における入退場動線作成及びサーモグラフィー設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止
- (9) 会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (10) イベント会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底
- (11) フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する
- (12) 会場内で飲食する場合は、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控え、会話が発生する場所では飛沫防止パネルを設置する。

感染対策の具体的実施事項

- (1) ホームページにおいて来場者に向けた新型コロナウイルス感染症対策について掲載及び周知
- (2) イベント開催の前、出展者向け案内状による1週間の健康チェック及び抗原検査実施の事前告知
- (3) 健康チェック用紙及び抗原検査キットの送付
- (4) 出展者及び関係者は、大会開催1週間前からの健康状態の記録と大会当日の体温を健康チェック用紙に記入・提出を徹底
- (5) ブースに常駐する出展者及び関係者は、会場入り初日の24時間以内に抗原検査を実施し、陰性であることを確認
- (6) 会場内動線を一方通行とし、入口に検温所を設置し、発熱者や体調不良者は参加不可
- (7) 会場入り口及び会場内に手指消毒液及び注意喚起サインの設置（マスク着用、会話を控える、隣との間隔を空ける）
- (8) 出展者及び関係者は、不織布マスクを着用する
- (9) 来場者はフィジカル・ディスタンスに留意し、会場内ではマスクを着用する
- (10) 以下に該当する方は、イベント会場への来場を控えていただき、入場不可とする
 - ①過去1週間以内から来場当日までに、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温 37.5℃ 以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記 a～c に該当する方
 - a. 有症状で、発症日から 8 日未満、かつ症状軽快後 24 時間以内
 - b. 無症状病原体保有者では、陰性確認から 8 日未満
 - c. 無症状病原体保有者のうち、検体採取日から 5 日目に抗原検査等を行い、陰性が確認されていない（5 日目に陰性が確認されれば 6 日目に解除が可能）
 - ③濃厚接触者として自宅待機中（最終の陽性者との接触から 5 日間）

感染対策チーム組織体制図



感染対策マニュアル作成

主催者、感染対策チーム、その他主要運営スタッフに配布（全18ページ）



INDEX	
■はじめに	
本マニュアルの目的	3
用語の定義	3
■HMB開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン	
HMB開催における対策事項	5
開催期間中の注意点まとめ	7
■HMB開催中止の判断基準	
開催中止の判断基準	8
■健康観察報告	
健康観察報告フォームの提出	9
■コロナ対策チーム	
組織体制図	10
■コロナ対策連絡先一覧	
コロナ対策担当者/保健所	11
■会場における検温所体制	
検温所の概要	12
会場全体図	13
ブース配置図	14
■会場設置注意喚起看板	
注意喚起看板	15
■感染疑い発生時の対応フロー	
感染疑い発生時の対応フロー	16
感染疑い発生時の対応フロー（陽性確定時）	17
■コロナ対策備品リスト	
コロナ対策備品リスト	18

健康観察、行動履歴報告の記録用紙の提出

2023ハンドメイドバイシクル展では、出展者及び関係者にイベント当日から遡った1週間にわたり、体調不良や発熱等の症状がない旨を確認する健康観察・行動履歴報告の記録用紙の提出を義務とした。

●方法

事前に郵送した関係者向け行動履歴・健康チェック用紙に所属団体名/氏名を記載、会場入り後、感染対策チームへ提出。

抗原検査の実施・結果の申告

ブースに常駐する出展者及びイベント関係者に抗原検査キットを送付し、会場入り前24時間以内に検査を行うことを義務とした。

●方法

ビルダー各社ごとに必要な抗原検査キット数を確認し、発送。
検査実施のタイミング（会場に入る24時間以内）をキットに同封した案内状に記載。
検査の結果は、各自で陰性であることを確認。

感染疑似症者発生時の対応

＜対応手順＞

1. 検温にて37.5度以上を検知
2. 再検温車両へ移動
3. 問診及び再検温
4. 発熱または問診の結果、感染が疑われる場合は入場不可の判断
5. 緊急性がある場合は救急搬送、緊急性がない場合は帰宅

感染対策員の配置

会場内の感染対策として感染対策員による清掃を実施、商談ブース等の利用者が頻繁に利用するものの消毒を定時で実施する。トークショー終了後毎に、会場の椅子の消毒を実施する。

●方法

清掃員にはグローブ、消毒スプレー、ペーパータオルを携行させて会場内を巡回し、巡視。商談が終了したテーブルおよび椅子は、携行品を使用して速やかに消毒を実施。トークショー会場で使用した椅子は、終了後済みやかに消毒を実施。

混雑状況表示モニターの設置

会場内の感染対策として、混雑具合を広報する混雑状況表示モニターの設置を実施する。施設の収容上限人数700名に対し、来場者入場規制は関係者100名を引き、余裕をみて**550名**以内を保つように運用を行う。

●方法

混雑状況を4段階に分け、会場内に滞在している来場者の集計を行い、混雑具合及び入場制限を実施。

【青：空き、オレンジ：普通、赤：混雑、黒：入場制限】

集計は毎時0分、30分に入場者数から退場者数引き、会場内に滞在している人数を求める。

人数設定は、200名まで青、400名までピンク、550名まで赤、550名を超えた場合には黒の入場規制。

行動履歷、健康觀察報告

●概要

大会当日の1週間（1/14～1/20）以内に、所定の体調管理項目に当てはまる症状及び行動調査項目がないかチェックを行い提出。

●実施日

2023年1月20日

●対象者

2023ハンドメイドバイシクル展出展者及び関係者

<健康観察用紙>



ハンドメイドバイシクル展2023
関係者向け行動履歴・健康チェック用紙

該当期間：令和5年1月14日から1月20日まで
該当期間内において、下記項目に当てはまる項目がないことを確認し、ご所属・ご氏名の記入をお願いいたします。

【行動履歴・健康チェック項目】

1. 37.5℃以上の発熱
2. せき、のどの痛みなどの風邪症状
3. だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
4. 嗅覚や味覚の異常
5. 体が重く感じる、だるいなどの症状
6. 新型コロナウイルス感染症陽性と診断された人と過去5日以内に濃厚接触
7. 新型コロナウイルス感染者（確定）と同居、または長時間の接触があった

以上の項目において、該当する項目はありません。

ご所属 _____

氏 名 _____

集計結果

<ビルダー>

回答者数	37団体（81名）
体調不良なし	81名
体調不良あり	0名
抗体検査	すべて陰性

<関係者・スタッフ>

回答者数	3社（42名）
体調不良なし	42名
体調不良あり	0名
抗原検査回答	すべて陰性

会場における検温所体制

会場における検温所体制

2023ハンドメイドバイシクル展では、コロナ対策として会場入り口にて参加者への検温所の運営を行った。
検温所通過後には、記録員が来場者のマスク着用を確認し、無着用または不織布以外のマスクを着用している方へ声掛け、交換用マスクを提供し交換を促した。

補足事項

- ・2日間通して1名のみ、マスク交換拒否があった（30代男性）

●検温フロー

検温所では以下のフローに従って入場の可否を判断する。

<入場可能> 検温所 37.4℃ 以下

<要再検温> 検温所 37.5℃ 以上

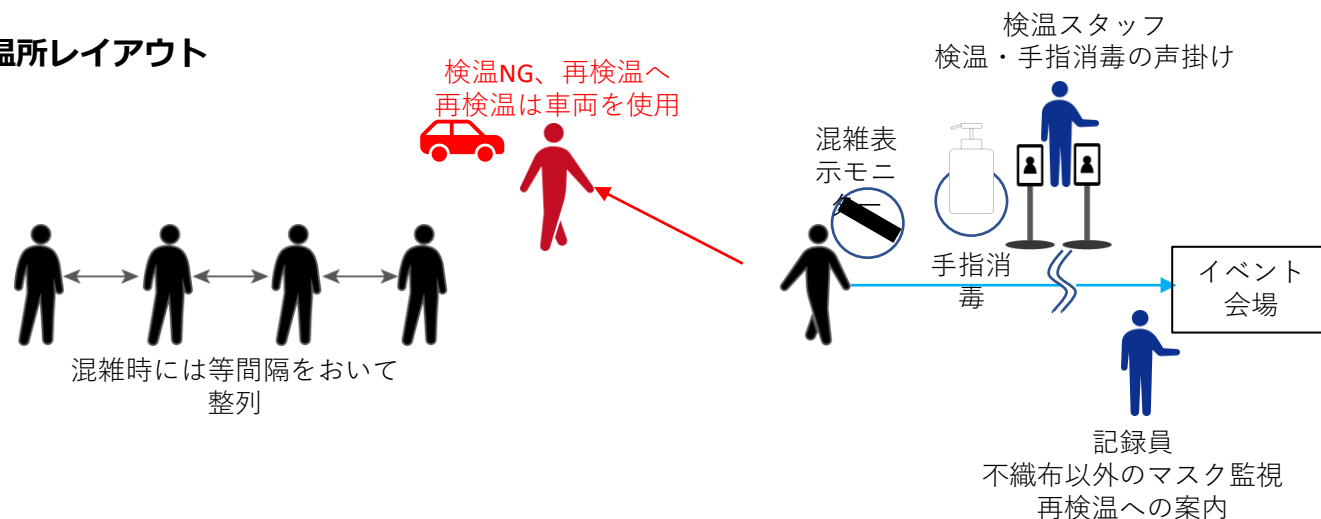
<入場不可> 再検温所 37.5℃ 以上 または 問診内容に感染の症候等あり

●使用機材

サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T



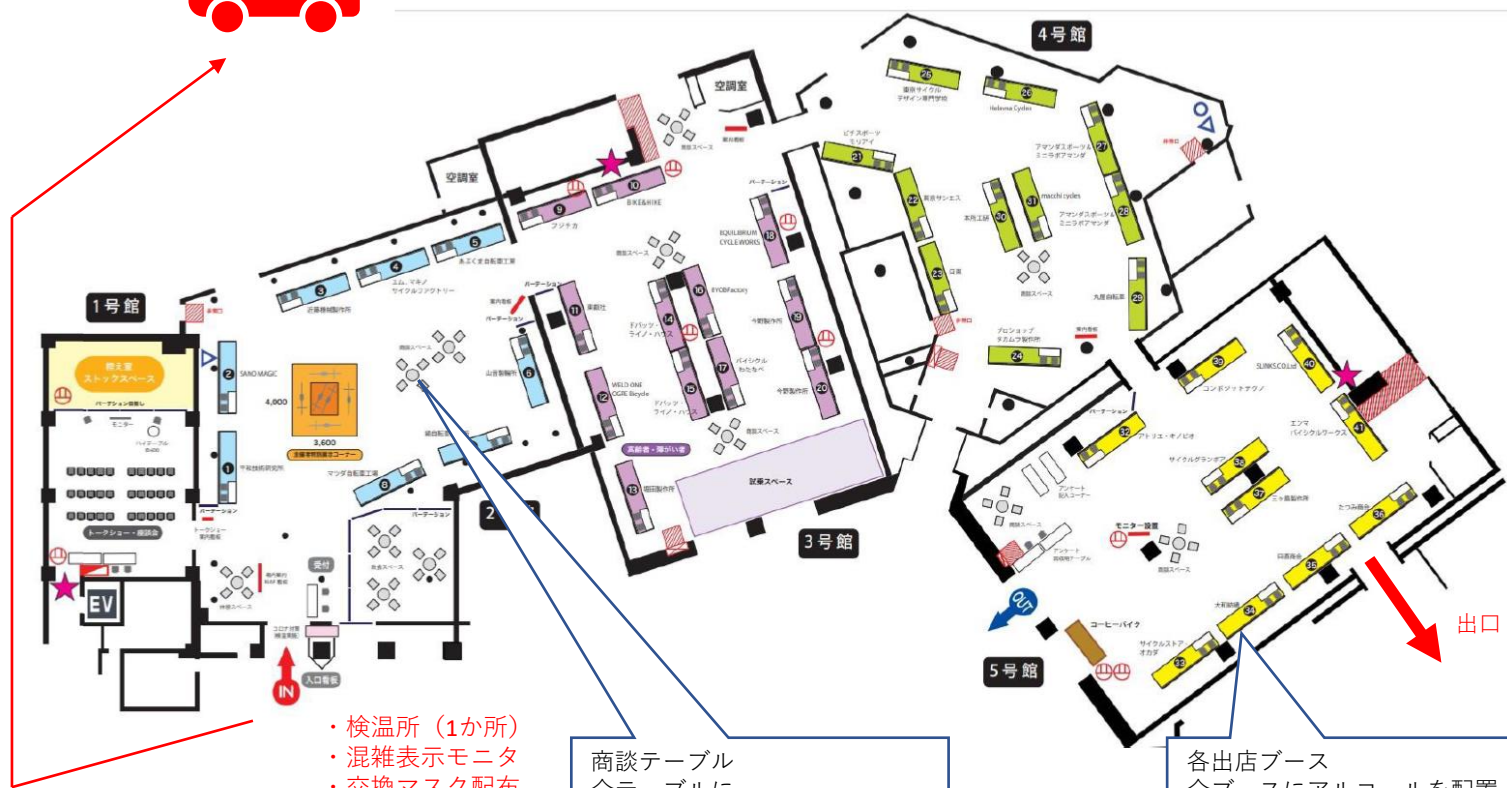
●検温所レイアウト



会場における検温所体制

●メイン会場

再検温車両
(会場裏駐車場)



- ・検温所 (1か所)
- ・混雑表示モニタ
- ・交換マスク配布

商談テーブル
全テーブルに
アクリルパーテーションおよび
アルコールを配置

各出店ブース
全ブースにアルコールを配置

結果報告

会場における検温所 集計結果

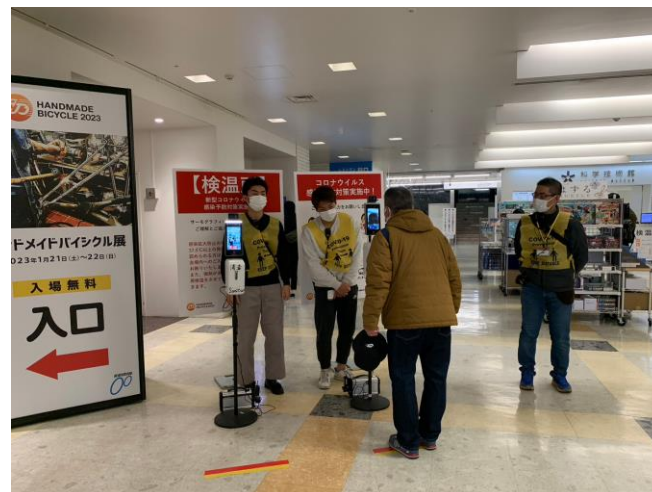
1/21 イベント1日目

入場者数	1040
マスク未着用数	6
特記事項	マスク着用を拒否1名。 周りの方が不安に感じる 恐れがあるので着用はさせず、 マスクを持って入場。

1/22 イベント2日目

入場者数	1078
マスク未着用数	2
特記事項	

検温所の様子



会場内の様子



考察まとめ (1/2)

1. 関係者の管理に関する事項

- ・健康チェックをオンラインフォームから用紙に変更したことで、朝の検温時に一定数の回収が可能となった。また、昨年課題となった、開場後に来場する出展者の対応については、入口での検温・チェック用紙の受取りをすることができた。
- ・健康チェック用紙を「書いていない」「忘れた」という方には口頭による健康状態の確認を行った。(全81名中10名)
- ・出展者への確認により、事前の申告より少ない人数の参加が8社/10名、逆に多い人数の参加が4社/12名あった。
- ・感染対策についての理解が深まったためか、朝の検温に協力的な方が多く、スムーズに検温が完了した。
- ・上記からオペレーション面の改善が見られ、引き続き「感染対策」の意識付けを関係者に対して行う事ができた。

2. 健康チェック・抗原検査に関する事項

- ・健康チェックの回答率は100%かつ、感染疑いのある回答は0件であった。
- ・事前の出展者へのヒアリングにより、抗原検査キット送付数と当日参加者数の差異が減少した。直前での人数変更は必然的に生じるため、健康チェック用紙が不足した場合は必要分コピーして当日持参してもらうよう案内した。関係者の出入り、常駐人数を100%把握できない場合、デジタルではなくアナログ対応も想定することで当日の混乱が少なくなると考えられる。

3. 検温所の体制に関する事項

- ・入場口が狭く、また混雑表示モニターの設置をしたため、検温は1台1名を配置して運用を行った。
- ・マスク着用のチェックは検温スタッフが実施、着用していない来場者へは配布し、2日間で合計8枚の配布を行った。
- ・混雑表示モニターは、両日とも開始1時間後にオレンジへと変更した。最も来場者数が多かったのは、21日の15:00～15:30までの30分で、362名が会場内に滞留した。
- ・背が低いお子様は固定サーマルカメラでの検温に苦慮する場面があるため、ハンディ式検温機の併用が良い。

4. 会場内の管理に関する事項

- ・感染対策員の監視により使用済み商談ブースの消毒作業を効率的に行うことができた。
- ・会場内に滞留する来場者は、終日平均して231名程度となり、昨年の180名程度と比較して来場者数が増加したが、入場規制をかけるには至らなかった。
- ・来場者のマスクを不織布に限定しなかったため、マスクの配布数が昨年比で格段に減少した。
- ・昨年同様、マスク着用を拒否する男性の来場があり、強制することでトラブルに発展しそうな場面があった。周囲の方が不安になることがあるという言葉を添え、不織布マスクを携行することを条件に入場させた。今後、マスク着用に対するとらえ方が変わってくるため感染対策と同時に柔軟な対応が求められると考えられる。

5. マスクの着用

- ・ 関係者全員が不織布マスク、来場者は材質を問わずマスクの着用を徹底した。
- ・ サーマルカメラ付近に配置した検温スタッフ、会場入り口付近に配置した記録スタッフの2重チェックにより、来場者がマスクを着用せずに入場することを防止することができた。

<2023年4月以降のマスク着用ルールに関する考察>

2023年2月10日の新型コロナウイルス感染症対策本部決定「マスク着用の考え方の見直し等について」の内容を鑑み、来場者へのマスク着用の働きかけは難しいものとなる。

ただし、「イベント開催等における感染防止安全計画等について（改定その10）」の追加項目に、「イベント主催者等が感染対策上又は事業上の理由などにより、出演者又は参加者等に対してマスクの着用を求めることができる。」とあることから、感染拡大状況によっては、関係者への感染対策の取り組みは可能である。

イベントによっては、来場者同士が接近し声を出してレースを観戦するなど感染リスクの高い場面が考えられるため、場面に応じてマスク着用を促すなどが効果的と思われる。

手配物、会場の様子

手配備品一覧

【関係者配布物】

備品	手配数	配布数	備考
フェイスシールド	50個	0個	出展社用+全体運営
不織布マスク（個包装）	20個	8個	配布用（忘れた方）
不織布マスク（個包装なし）	150個	0個	配布用（忘れた方）

【検温所・コロナ対策チーム所持】

備品	数量	配布数	備考
サーマルカメラ	2	2	BS-K1TA70MI-T
ハンディタイプ非接触型検温機	4	4	
会場内検温所及び注意喚起看板	6	6	
防護服	2	2	
消毒液ボトル設置テーブル	2	2	
飛沫防止パネル	9	9	商談テーブル用
除菌シート（100枚入り）	2	0	消毒作業用
アルコール消毒液（プッシュポンプ） 500ml	55	55	商談テーブル/ビルダー/検温所
アルコール消毒液（ハンドスプレー）	5	5	対策スタッフ消毒作業用
会場内混雑度表示用パソコン	1	1	
感染症対策スタッフビブス	16	16	

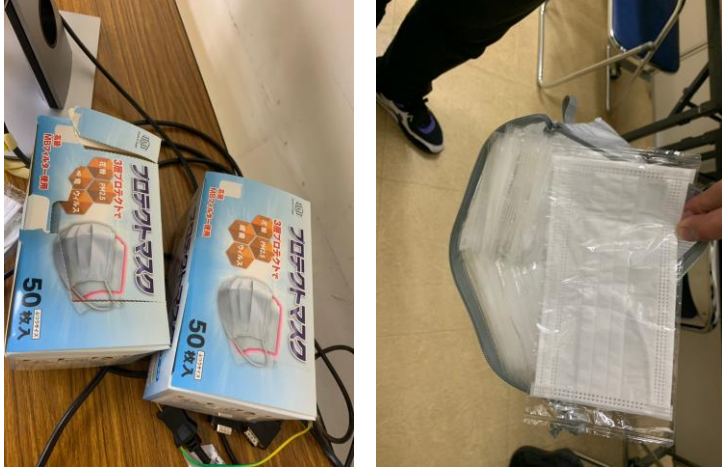
感染症対策スタッフは
下記のビブスを着用



サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T

手配納品物

▼マスク（個包装あり／個包装なし）



▼会場内の注意喚起サイン（２種類）



▼サーモグラフィ



▼フェイスシールド



▼消毒液



▼飛沫防止パネル



▼防護服

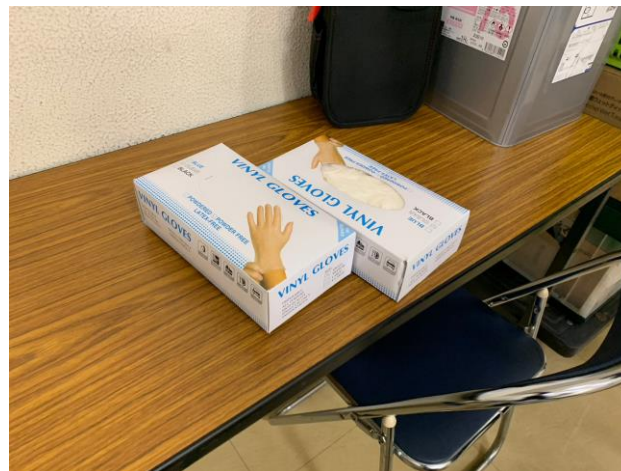


手配納品物

▼非接触検温機（ハンディタイプ）



▼ゴム手袋



▼除菌シート

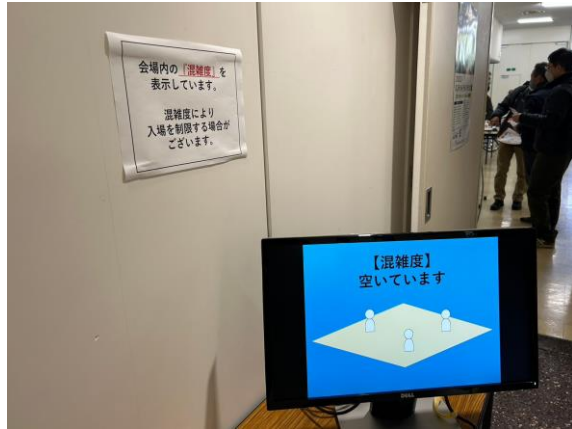


▼アルコール消毒液



会場の様子

▼検温の様子及び混雑表示モニタ



▼マスクの配布（来場者）



▼トークショー会間の清掃・消毒作業



▼清掃員による商談ブース消毒の様子



▼再検温用車両



▼検温所での消毒呼びかけ



参考、出典文献

○UCI（国際自転車競技連合）

「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic – コロナウイルスパンデミックに関連したロードシーズン再開にあたって守られるべき手順について」

<https://www.uci.org/road/news/2020/covid-19-pandemic-how-to-return-to-cycling-events>

○UCI

「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic-ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則COVID-19パンデミックの環境で」

<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022/6WypWI73KkkKR6k3wkq0sR>

○公益財団法人日本自転車競技連盟

「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」

https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19

○公益財団法人日本スポーツ協会

「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

<https://japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>

○公益財団法人日本博物館協会

「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」

https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/jam_covid_guideline_20211014.pdf

○国土交通省

「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」

https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

○厚生労働省

「感染拡大防止と医療提携体制の整備－受診・相談センター／診療・検査医療機関等」

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansenkakudaiboushi-iryouteikyoku.html#h2_2

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

○東京都防災ホームページ

「【1月21日から2月13日】まん延防止等重点措置 イベントの開催制限等」

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1009757/1020864.html>

他のスポーツ団体等への情報提供実績

JCF、ジャパンカップ事務局、ツール・ド・九州事務局等へ、本調査研究の報告書を始め知見とノウハウの状況提供を行った。

調査実施団体

- ・株式会社ルーツ・スポーツ・ジャパン

【所在地】 〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町12-21 コモンズビル7F

【TEL】 03-3354-3900

【FAX】 03-3354-3901

- ・株式会社ピースフル

【所在地】 〒252-0232
神奈川県相模原市中央区矢部3-9-14 カスミビル1階

【TEL】 042-856-3995

【FAX】 042-856-3994